

若年者の男女共同参画に関する意識調査

報 告 書

<概要版>

平成23年12月

滋 賀 県

I. 調査概要

1. 調査目的

滋賀県の若年者（20歳～29歳）の男女共同参画に関する意識と実態を把握し、今後の男女共同参画社会の実現に向けた施策に役立てるための基礎資料とする。

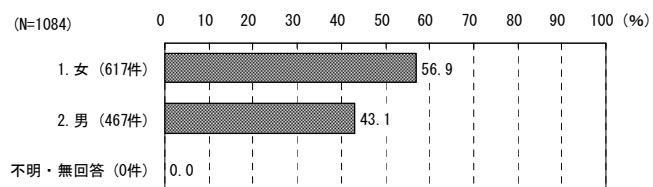
2. 調査の概要

- (1) 調査地域 県内全域（全市町から対象者抽出）
- (2) 調査対象 県内在住の20歳代の男女2,000人
- (3) 抽出方法 選挙人名簿を元に層化二段無作為抽出法
- (4) 調査方法 質問紙による郵送調査
- (5) 調査期間 平成23年10月5日～10月26日
- (6) 有効回収率 28.0%（有効回収数560件）

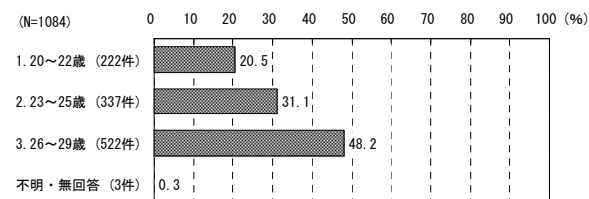
湖西地域は、抽出率を他の地域の2倍に設定して抽出を行い、集計時に他の地域を2倍にして集計するという補正処理を行った。（補正後標本数：1,084件）

3. 回答者の属性

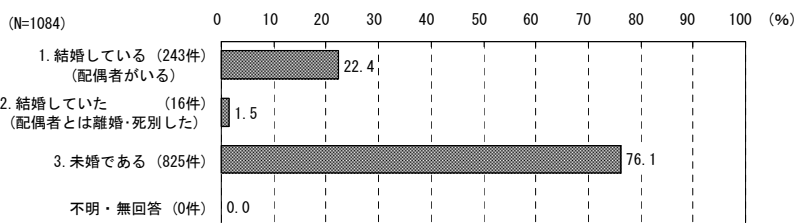
(1) 性別



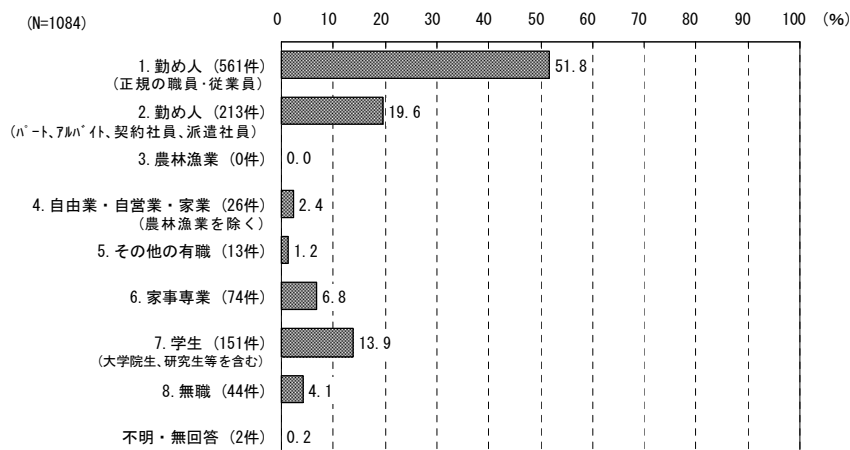
(2) 年齢階層



(3) 結婚の有無



(4) 職業別

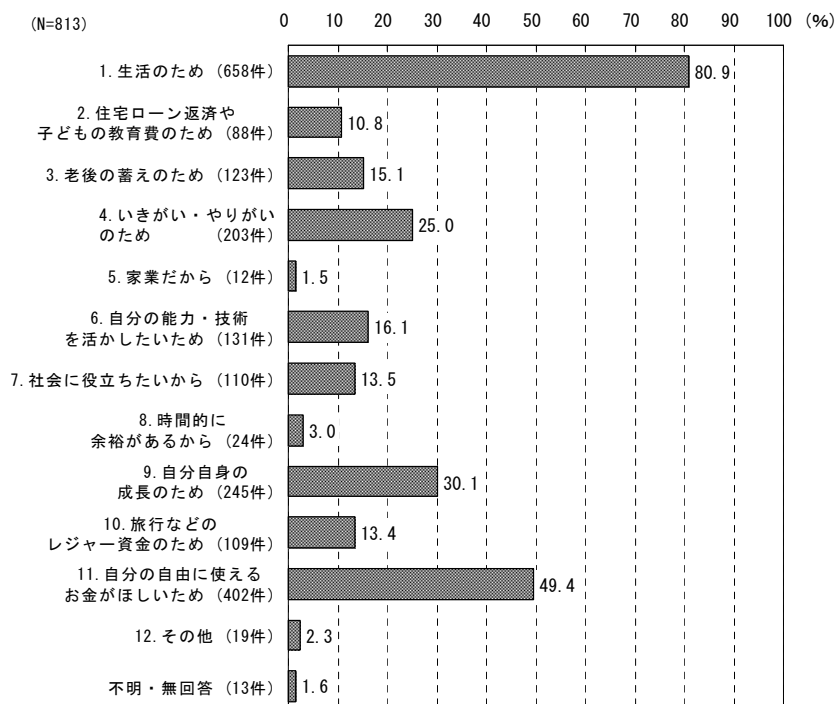


II. 集計結果

1. 仕事について

(1) 仕事の目的

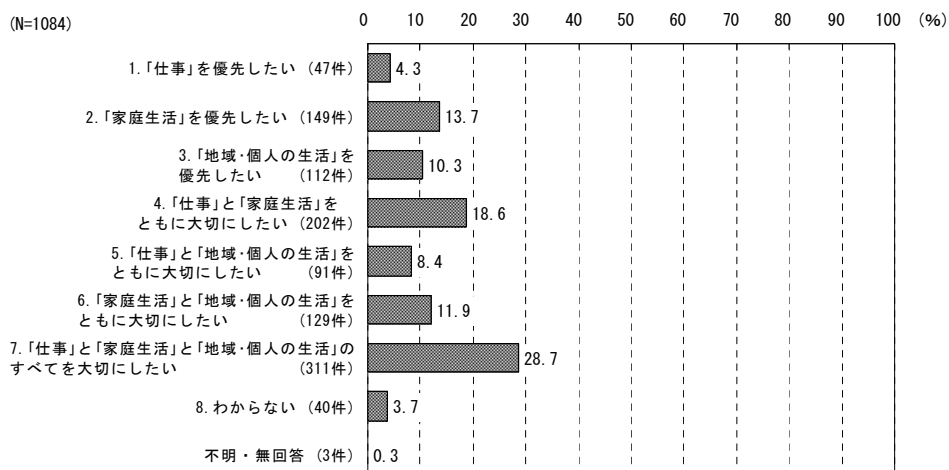
「生活のため」が80.9%と最も多く、「自分の自由に使えるお金がほしいため」が49.4%、「自分自身の成長のため」が30.1%、「いきがい・やりがいのため」が25.0%とこれに次いでいる。

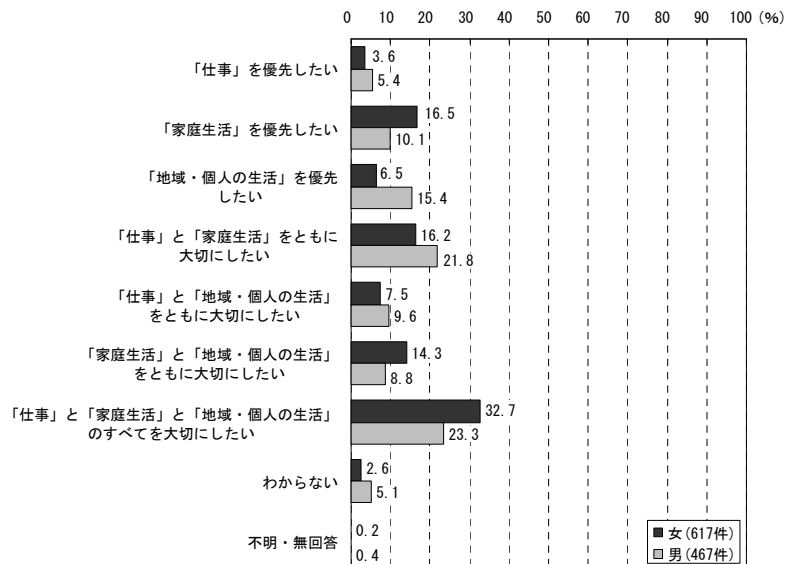


(2) 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度

「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』のすべてを大切にしたい」が28.7%と最も多く、「『仕事』と『家庭生活』をともに大切にしたい」が18.6%、「『家庭生活』を大切にしたい」が13.7%とこれに次いでいる。

これを性別で見ると、女性は男性に比べて「『家庭生活』を大切にしたい」が6.4ポイント、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに大切にしたい」が5.5ポイント、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』のすべてを大切にしたい」が9.4ポイント多くっており、家庭生活を重視する傾向が表れている。

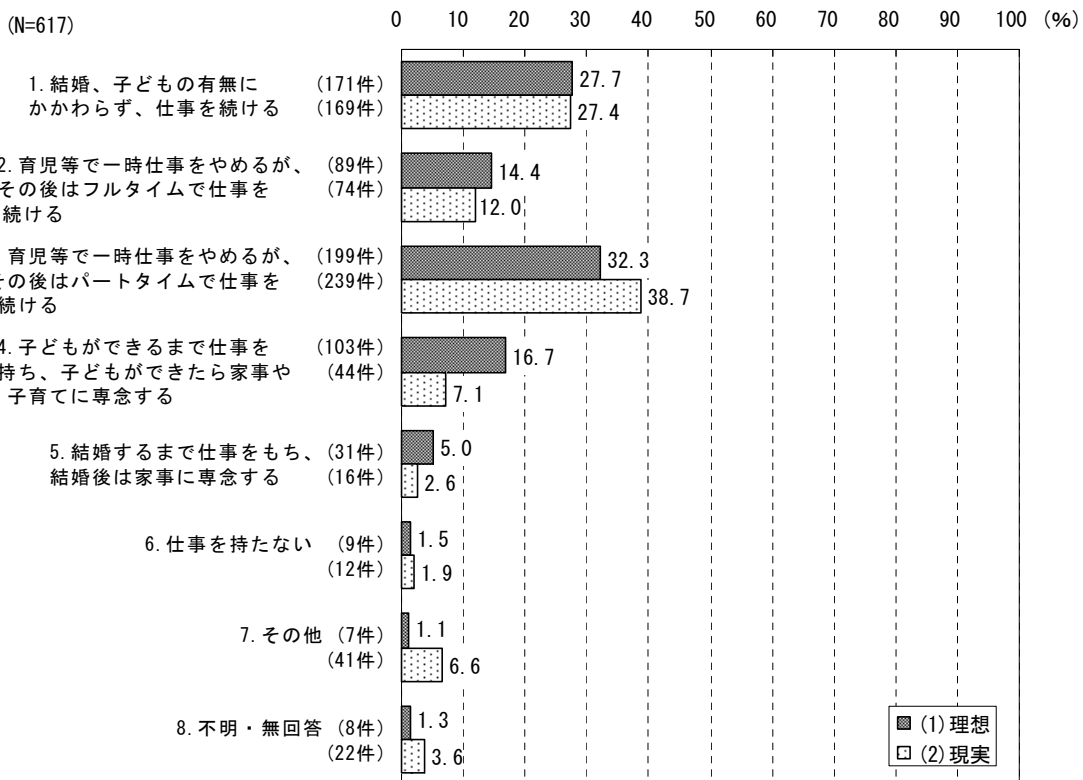




(3) 女性の働き方の理想と現実 (女性のみ)

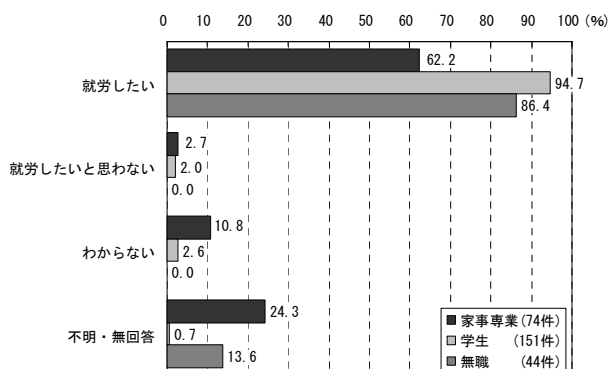
女性の理想の働き方では、「育児等で一時的に仕事をやめるが、その後はパートタイムで仕事を続ける」が32.3%と最も多く、「結婚、子どもの有無にかかわらず、仕事を続ける」が27.7%、「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたら家事や子育てに専念する」が16.7%、「育児等で一時仕事をやめるが、その後はフルタイムで仕事を続ける」が14.4%とこれに次いでいる。

他方、女性の現実の働き方では、「育児等で一時的に仕事をやめるが、その後はパートタイムで仕事を続ける」が38.7%と最も多く、「結婚、子どもの有無にかかわらず、仕事を続ける」が27.4%、「育児等で一時仕事をやめるが、その後はフルタイムで仕事を続ける」が12.0%とこれに次いでいる。



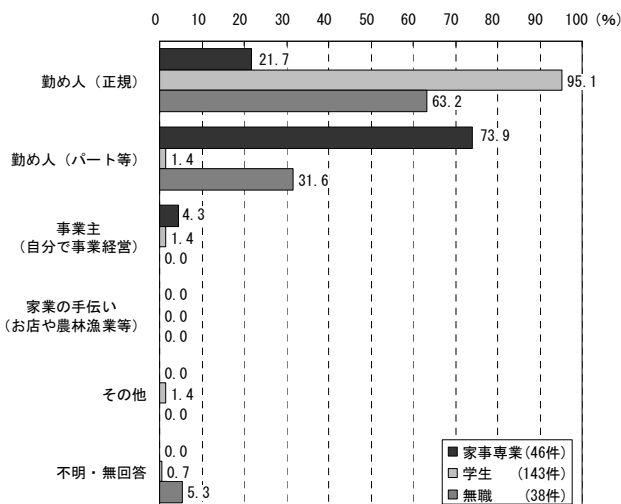
(4) 今後の就労希望（家事専業、学生、無職のみ）

職業別で見ると、「家事専業」で62.2%が就労を希望しており、「学生（大学院生、研究生等を含む）」で94.7%が就労を希望している。



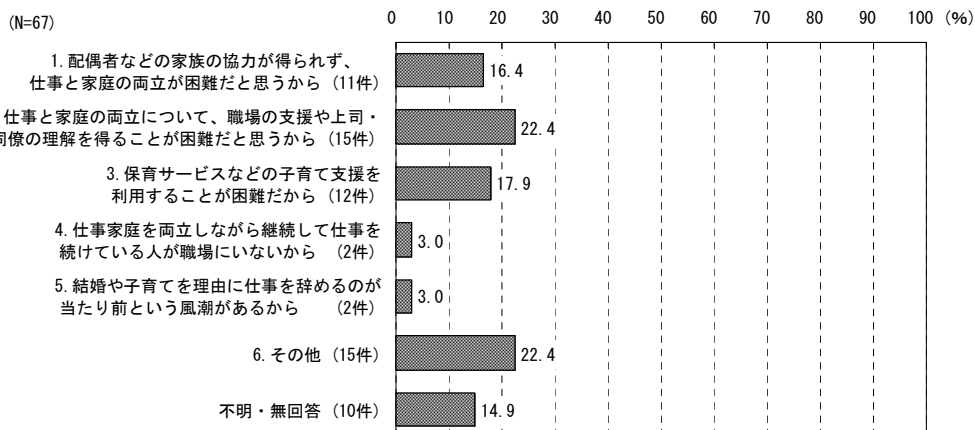
(5) 今後希望する就労形態（家事専業、学生、無職のみ）

職業別で見ると、「家事専業」で73.9%が「勤め人（パート、アルバイト、契約社員、派遣社員）」を希望し、「勤め人（正規の職員・従業員）」は21.7%となっている。「学生（大学院生、研究生等を含む）」では、95.1%が「勤め人（正規の職員・従業員）」を希望している。



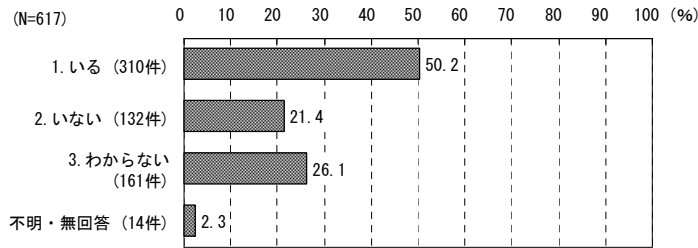
(6) 継続して仕事を続けられない理由（女性のみ）

「仕事と家庭の両立について、職場の支援や上司・同僚の理解を得ることが困難だと思うから」が22.4%と最も多く、「保育サービスなどの子育て支援を利用することが困難だから」が17.9%、「配偶者などの家族の協力を得られず、仕事と家庭の両立が困難だと思うから」が16.4%とこれに次いでおり、半数以上が職場、社会環境（行政）、家庭の中に継続して働けない理由があると答えている。



(7) 仕事と家庭を両立し、社会で活躍するためのお手本となるような人物の有無（女性のみ）

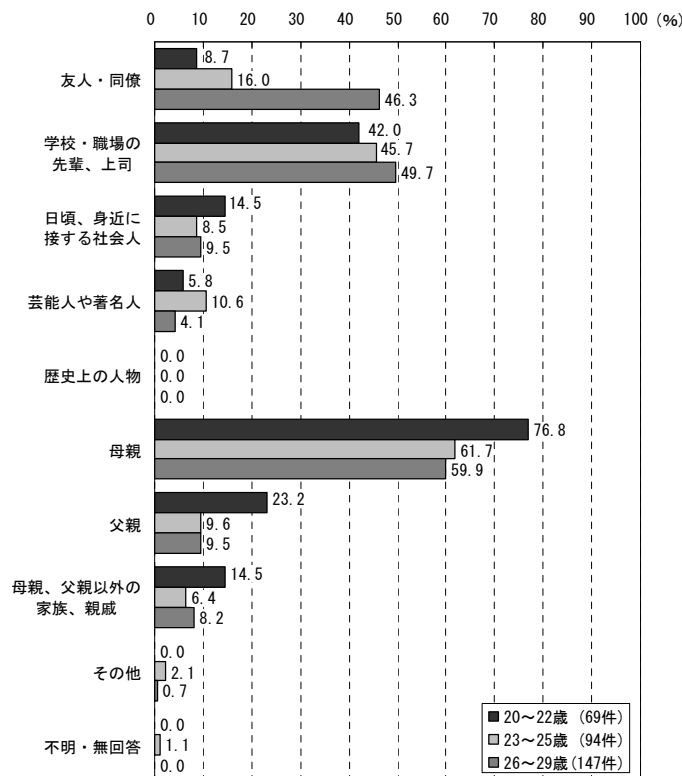
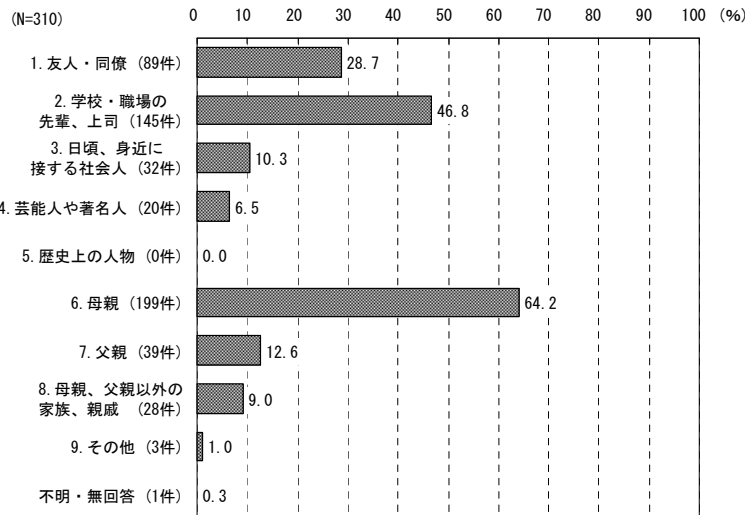
「いる」が50.2%を占めており、他方「いない」は21.4%となっている。



(8) 仕事と家庭を両立し、社会で活躍するためのお手本となるような人物（女性のみ）

「母親」が64.2%と最も多く、「学校・職場の先輩、上司」が46.8%、「友人・同僚」が28.7%とこれに次いでおり、身近な人がお手本となっている。

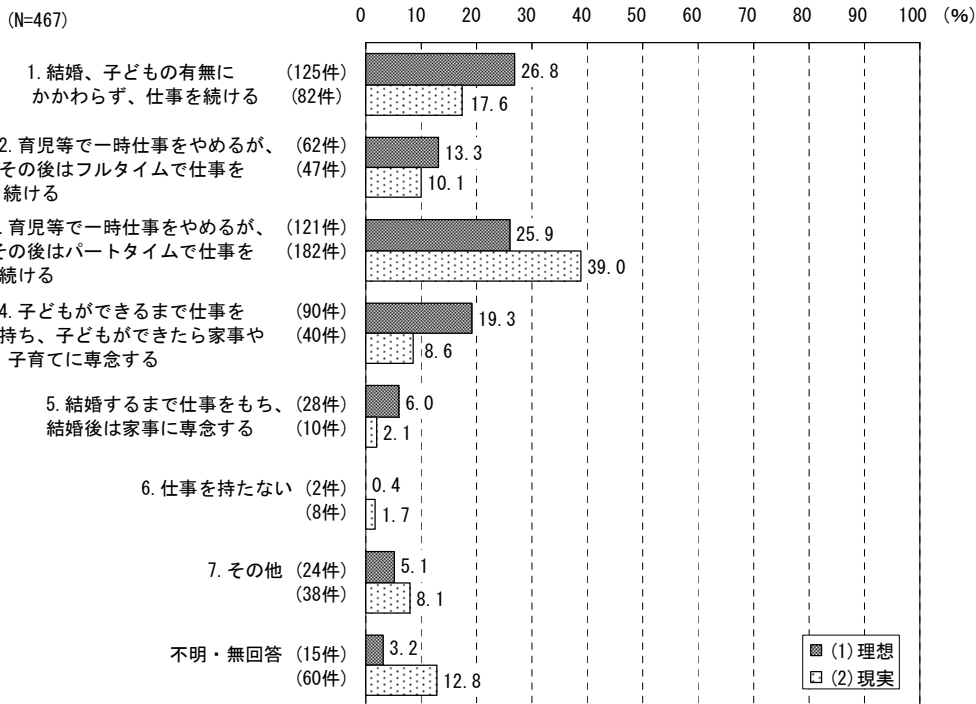
年齢別で見ると、「20～22歳」では「母親」が76.8%、「父親」が23.2%と、他の年齢層に比べて多くなっている。他方、「26～29歳」では「友人・同僚」が46.3%と他の年齢層に比べて多くなっている。



(9) 男性にとって、配偶者に望む働き方の理想と現実（男性のみ）

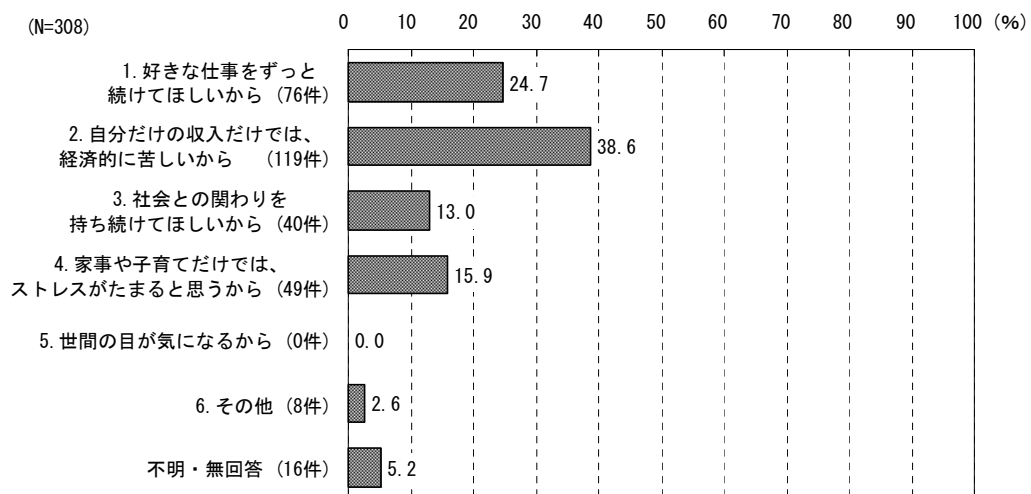
配偶者の理想の働き方では、「結婚、子どもの有無にかかわらず、仕事を続ける」が 26.8%と最も多く、「育児等で一時的に仕事をやめるが、その後はパートタイムで仕事を続ける」が 25.9%、「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する」が 19.3%、「育児等で一時仕事をやめるが、その後はフルタイムで仕事を続ける」が 13.3%とこれに次いでいる。

他方、配偶者の現実の働き方では、「育児等で一時的に仕事をやめるが、その後はパートタイムで仕事を続ける」が 39.0%と最も多く、「結婚、子どもの有無にかかわらず、仕事を続ける」が 17.6%、「育児等で一時仕事をやめるが、その後はフルタイムで仕事を続ける」が 10.1%とこれに次いでいる。



(10) 配偶者に仕事を続けてほしい理由（男性のみ）

「自分だけの収入だけでは、経済的に苦しいから」が 38.6%と最も多く、「好きな仕事をずっと続けてほしいから」が 24.7%、「家事や子育てだけでは、ストレスがたまると思うから」が 15.9%とこれに次いでいる。

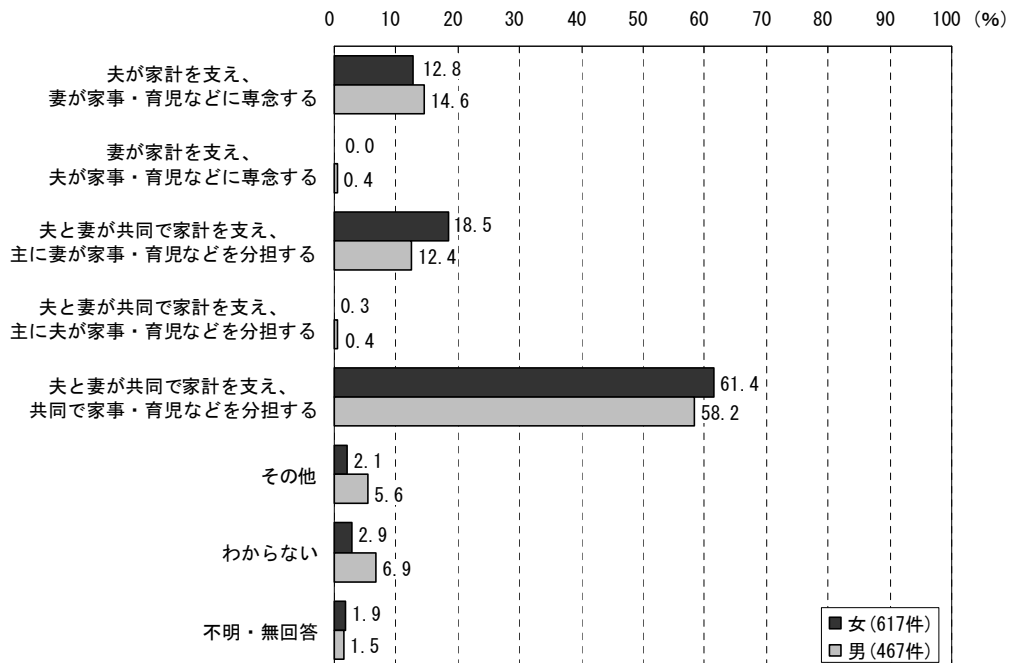
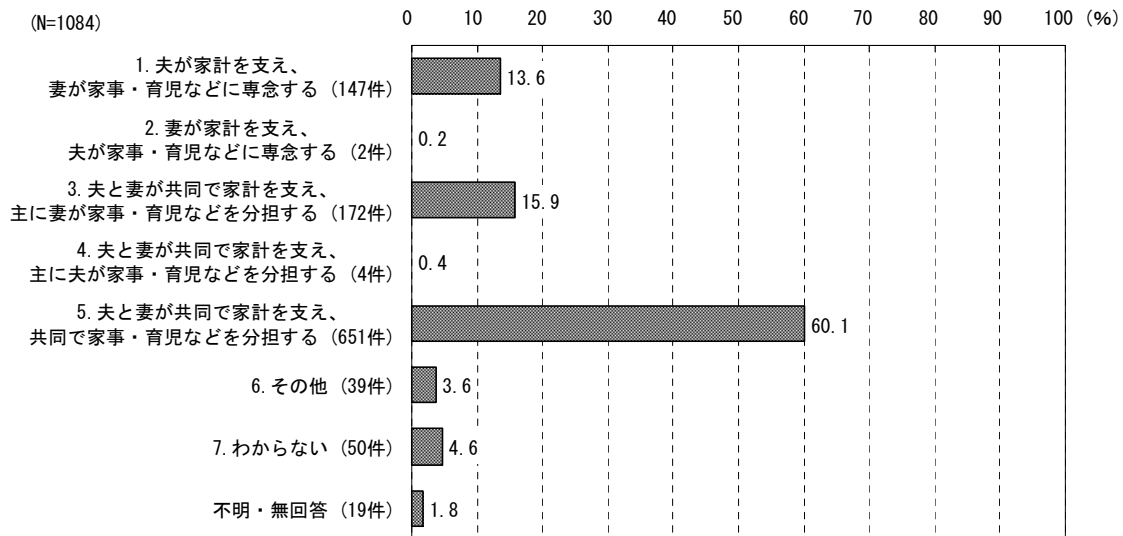


2. 結婚・子育てについて

(1) 結婚後の男女の役割分担

「夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児などを分担する」が 60.1%と最も多く、「夫と妻が共同で家計を支え、主に妻が家事・育児などを分担する」が 15.9%、「夫が家計を支え、妻が家事・育児などに専念する」が 13.6%とこれに次いでいる。

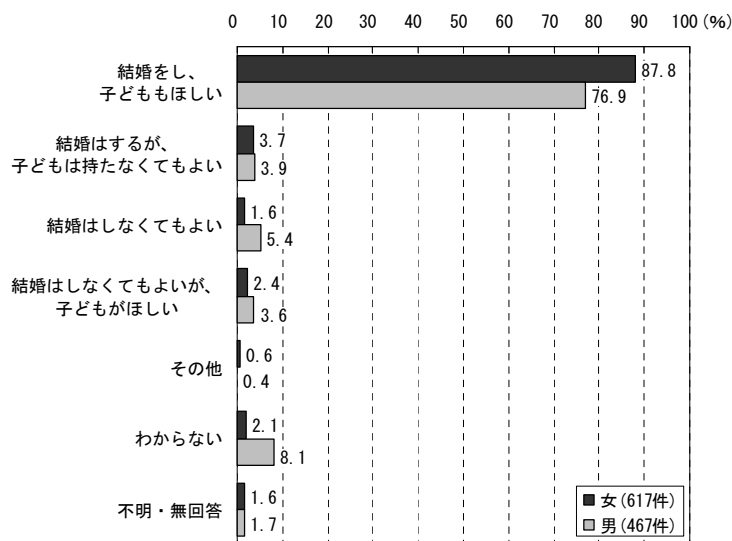
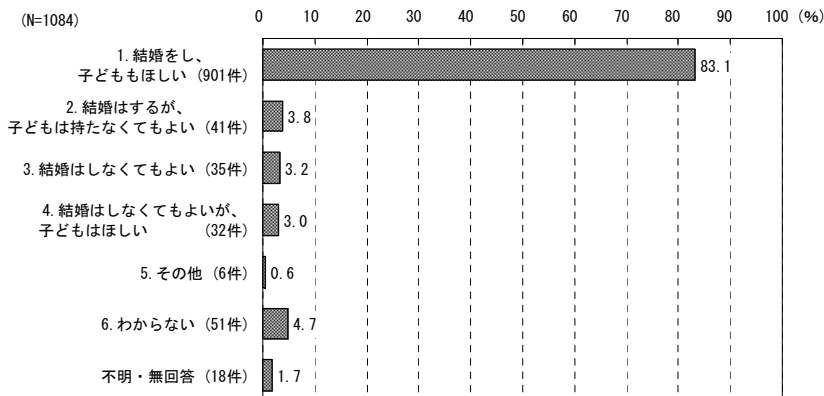
これを性別で見ると、男性では女性に比べ「夫が家計を支え、妻が家事・育児などに専念する」が 1.8 ポイント多いのに対し、「夫と妻が共同で家計を支え、主に妻が家事・育児などを分担する」が 6.1 ポイント、「夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児などを分担する」が 3.2 ポイント少なくなっている。



(2) 結婚および子どもについての考え方

「結婚をし、子どももほしい」が83.1%と大半を占めている。

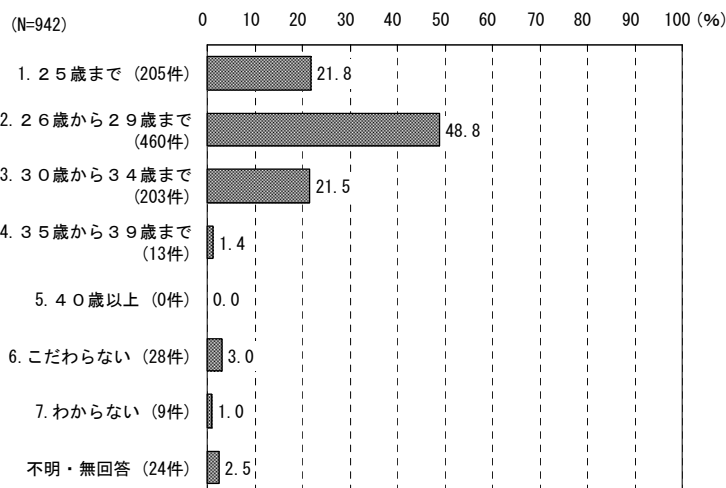
これを性別で見ると、女性は男性に比べ「結婚をし、子どももほしい」が10.9ポイント多くなっている。

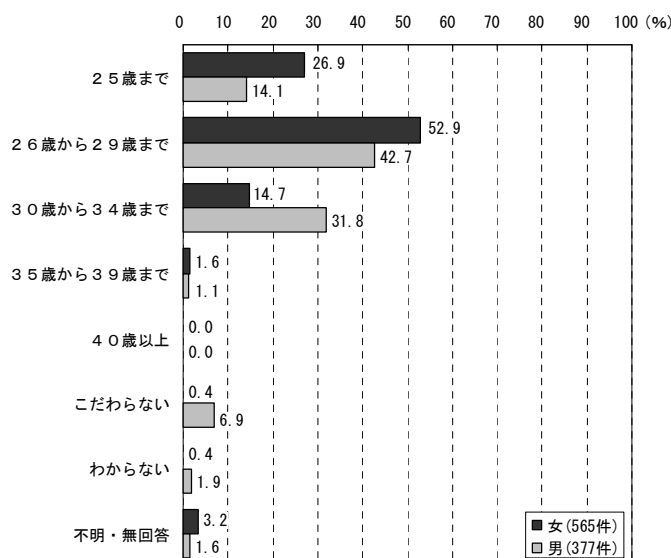


(3) 希望する結婚年齢

「26歳から29歳まで」が48.8%と最も多く、「25歳まで」が21.8%、「30歳から34歳まで」が21.5%とこれに次いでおり、概ね34歳までに結婚したいと考えられている。

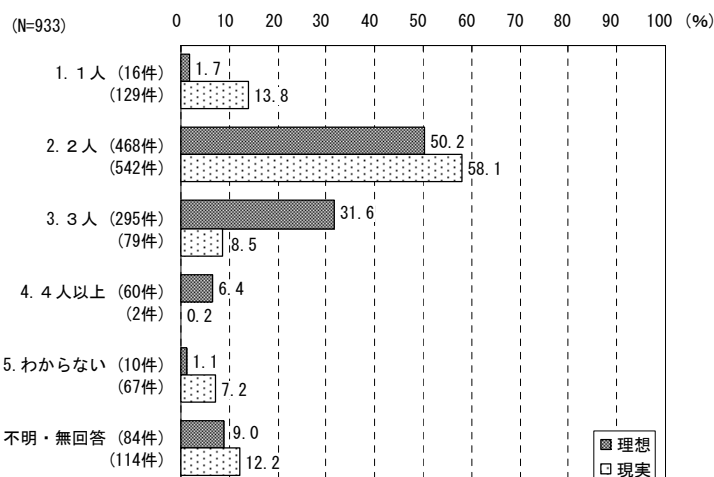
これを性別で見ると、女性では男性に比べ「25歳まで」が12.8ポイント、「26歳から29歳まで」が10.2ポイント多く、逆に「30歳から34歳まで」が17.1ポイント少なくなっており、女性の方が男性よりも結婚希望年齢が若い傾向にある。





(4) 子どもの人数の理想と現実

理想の子どもの数については、「2人」が50.2%と最も多く、「3人」が31.6%とこれに次いでいる。他方、現実の子どもの数については、「2人」が58.1%と最も多く、「1人」が13.8%とこれに次いでいる。



理想の子どもの数と現実の子どもの数を比較すると、理想の子どもの数を「1人」とする回答者の75.0%が現実の子どもの数と一致し、理想の子どもの数を「2人」とする回答者の66.2%が現実の子どもの数と一致している。他方、理想の子どもの数を「3人」「4人」としながらも、現実には「2人」を選択する回答者が多く、理想より現実の方が子どもの数が少なくなる傾向にある。

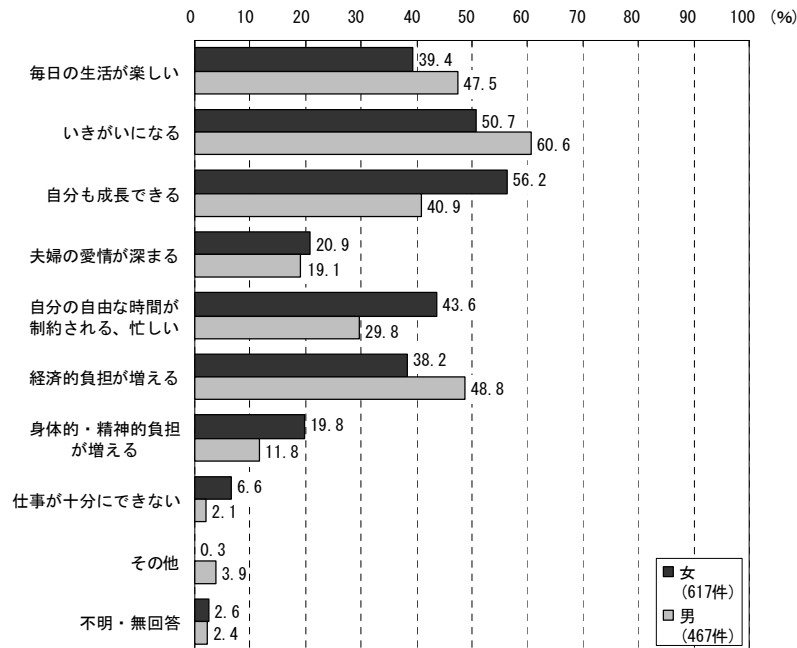
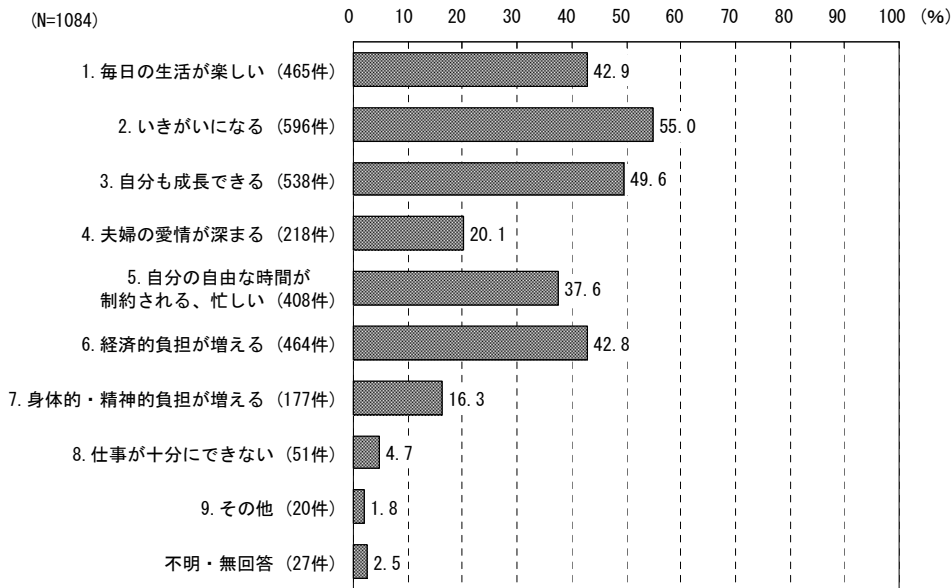
		問16 付問3 子どもの希望人数<現実>						
		1人	2人	3人	4人以上	わからない	不明・無回答	合計
問16 付問2 子ども希望人数<理想>	1人	12	0	0	0	2	2	16
		75.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	100.0
	2人	93	310	4	0	43	18	468
		19.9	66.2	0.9	0.0	9.2	3.8	100.0
	3人	17	201	53	0	16	8	295
		5.8	68.1	18.0	0.0	5.4	2.7	100.0
	4人以上	7.0	27.0	22.0	2.0	2.0	0.0	60.0
		11.7	45.0	36.7	3.3	3.3	0.0	100.0
	わからない	0	4	0	0	4	2	10
	0.0	40.0	0.0	0.0	40.0	20.0	100.0	
不明・無回答	0	0	0	0	0	84	84	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	
合計	129	542	79	2	67	114	933	
	13.8	58.1	8.5	0.2	7.2	12.2	100.0	

(5) 子育てのイメージ

「いきがいになる」が55.0%と最も多く、「自分も成長できる」が49.6%、「毎日の生活が楽しい」が42.9%、「経済的に負担が増える」が42.8%とこれに次いでいる。子育てをマイナスイメージで捉えるよりもプラスイメージで捉える傾向の方が強い。

これを性別で見ると、男性では女性に比べ「毎日の生活が楽しい」が8.1ポイント、「いきがいになる」が9.9ポイント多く、また「経済的負担が増える」が10.6ポイント多くなっている。

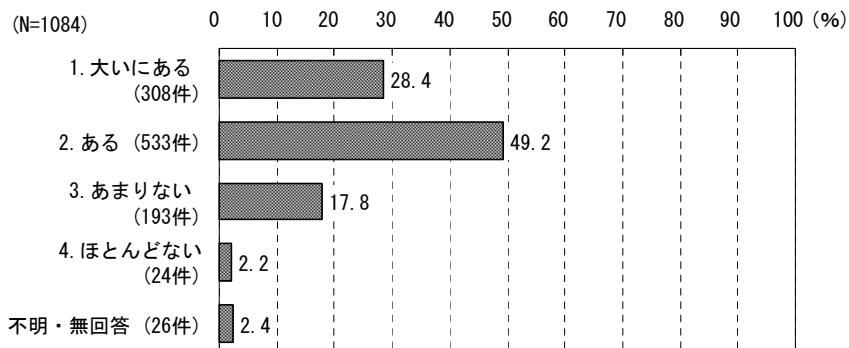
他方、女性では男性に比べ「自分も成長できる」が15.3ポイント多く、また「自分の自由な時間が制約される、忙しい」が13.8ポイント、「身体的・精神的負担が増える」が8.0ポイント多くなっている。



3. 将来の生活の不安

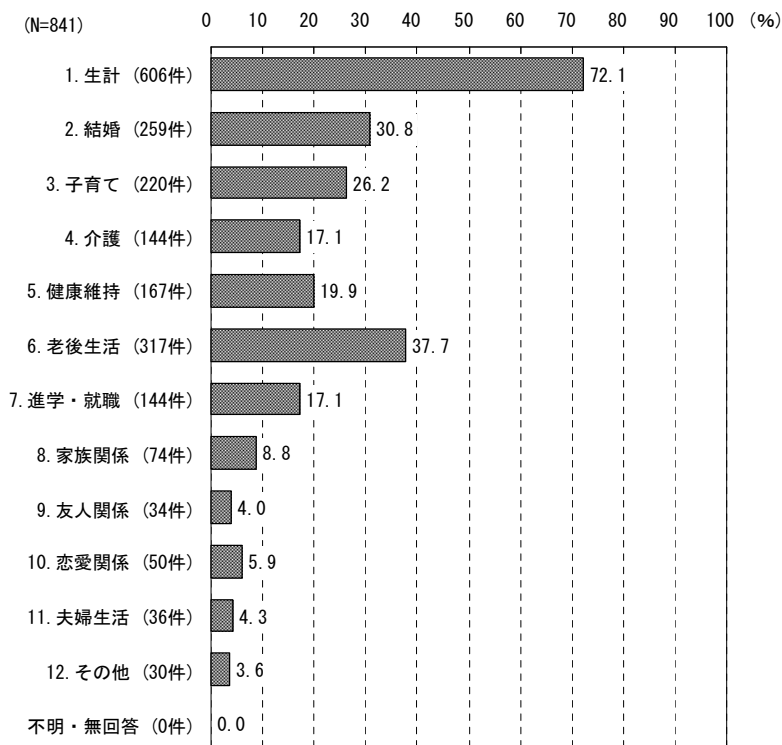
(1) 将来の生活についての不安の有無

「ある」が49.2%と最も多く、「大いにある」が28.4%、「あまりない」が17.8%とこれに次いでおり、8割近くがなんらかの不安を抱えている。



(2) 将来の生活についての不安の内容

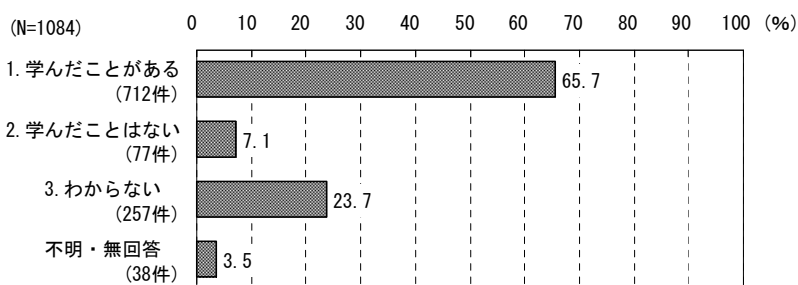
「生計」が72.1%と最も多く、「老後生活」が37.7%、「結婚」が30.8%、「子育て」が26.2%とこれに次いでいる。



4. 男女共同参画についての学習

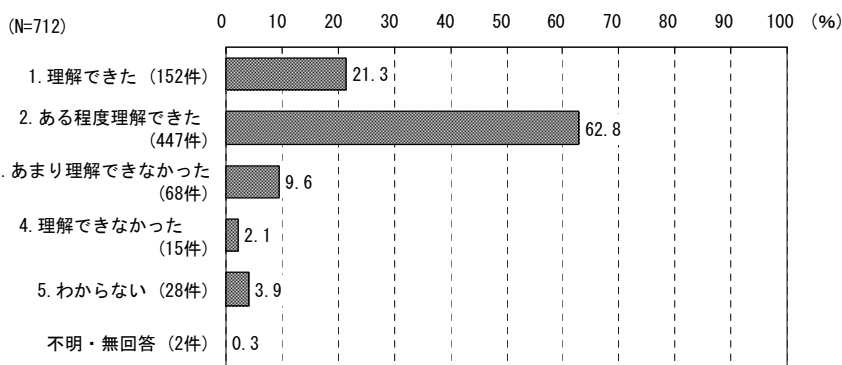
(1) 小・中・高等学校における男女共同参画についての学習経験

「学んだことがある」が65.7%を占めており、他方「学んだことはない」は7.1%となっている。



(2) 小・中・高等学校における男女共同参画についての学習の理解度

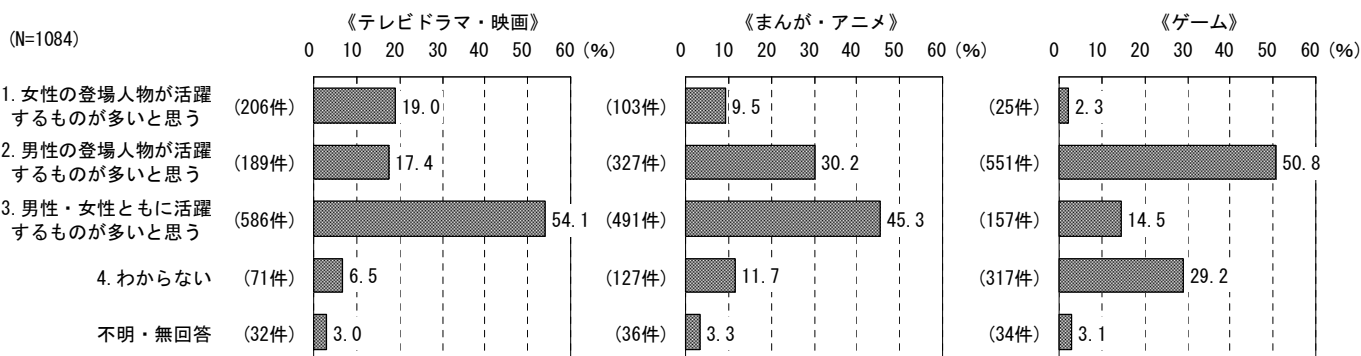
「ある程度理解できた」が62.8%と最も多く、「理解できた」が21.3%と次いでおり、双方合わせて8割以上が男女共同参画の内容を理解できている。



5. テレビドラマ、ゲーム等について

(1) テレビドラマ、ゲーム等の登場人物に関する男女の視点での認識

テレビドラマ・映画では「男性・女性ともに活躍するものが多いと思う」が54.1%を占めている。また、まんが・アニメでは「男性・女性ともに活躍するものが多いと思う」が45.3%と最も多いものの「男性の登場人物が活躍するものが多いと思う」も30.2%を占めている。他方、ゲームでは「男性の登場人物が活躍するものが多いと思う」が50.8%を占めている。

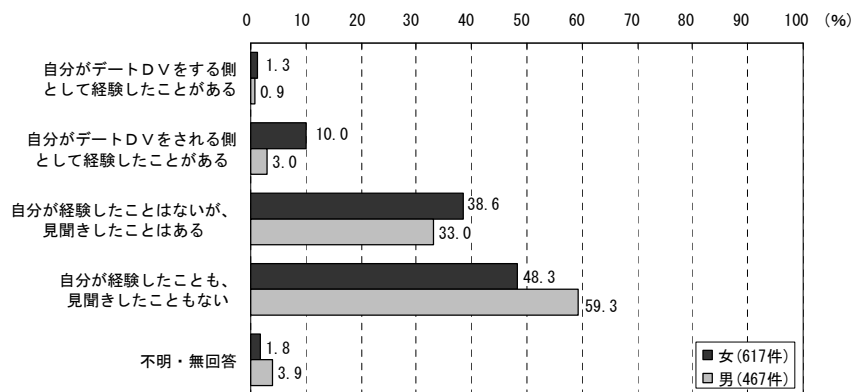
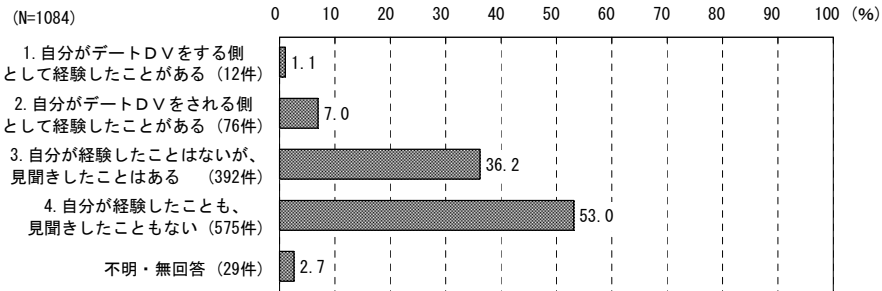


6. デートDVについて

(1) デートDVの経験

「自分が経験したことも、見聞きしたこともない」が53.0%と最も多く、「自分が経験したことはないが、見聞きしたことはある」が36.2%とこれに次いでいる。他方、被害者側、加害者側のいずれかで経験したことがあるのは8.1%となっている。

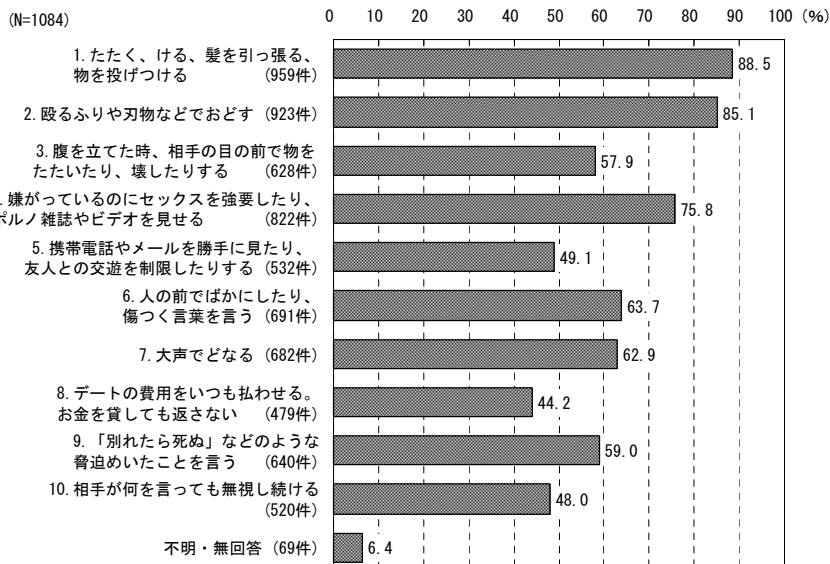
これを性別で見ると、女性で「自分がデートDVをされる側として経験したことがある」が10.0%となっている。



(2) 交際相手からの行為で、デートDVにあたると思うもの

「たたく、ける、髪を引っ張る、物を投げつける」が88.5%と最も多く、「殴るふりや刃物でおどす」が85.1%、「嫌がっているのにセックスを強要したり、ポルノ雑誌やビデオを見せる」が75.8%とこれに次いでいる。

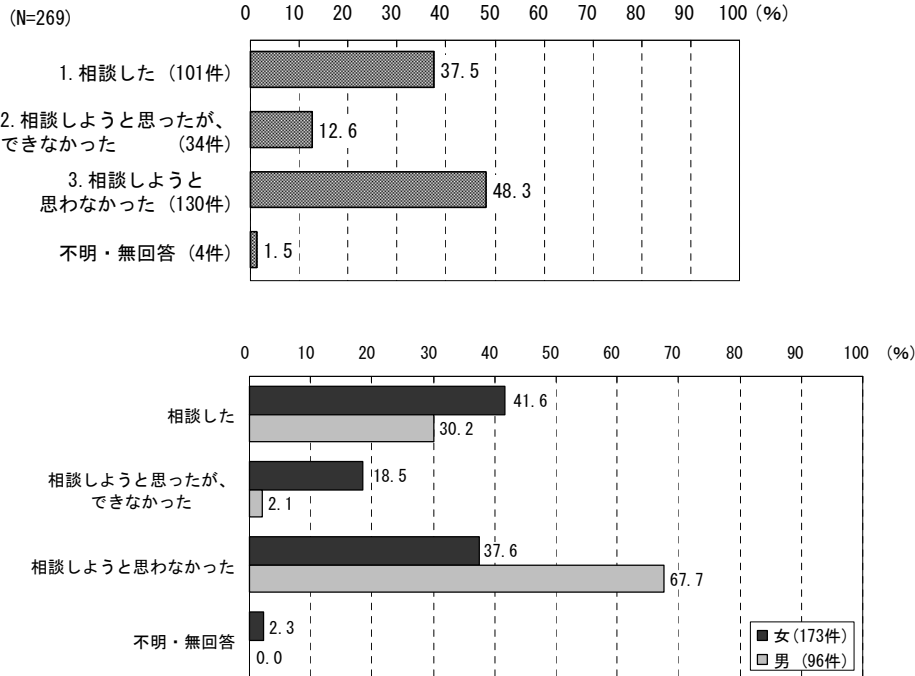
一方、「デートの費用をいつも払わせる。お金を貸しても返さない」「相手が何を言っても無視し続ける」「携帯電話やメールを勝手に見たり、友人との交遊を制限したりする」は、デートDVに当たると考える割合が50%に満たない。



(3) デートDVを受けた際の相談の有無

「相談しようと思わなかった」が48.3%と最も多く、「相談した」が37.5%とこれに次いでいる。他方、「相談しようと思ったが、できなかった」が12.6%を占めている。

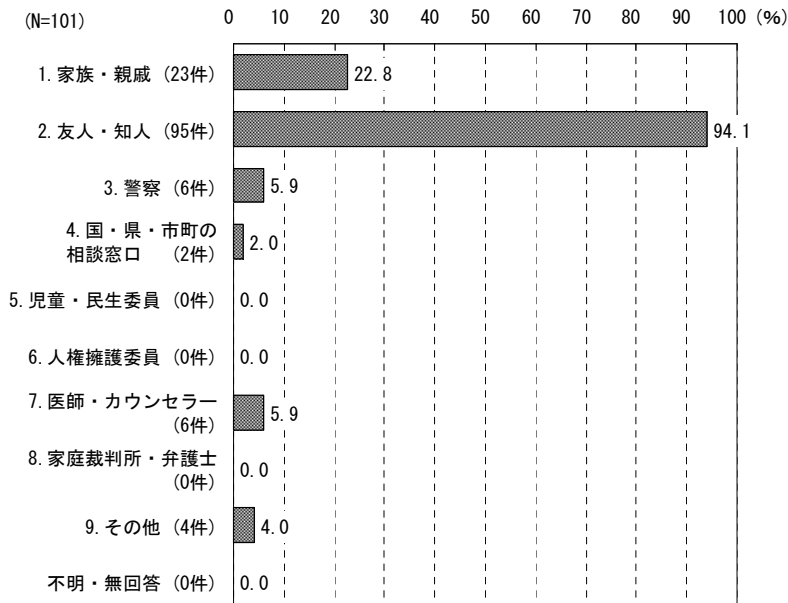
これを性別で見ると、男性では女性に比べ「相談した」が11.4ポイント、「相談しようと思ったが、できなかった」が16.4ポイント多くなっている。

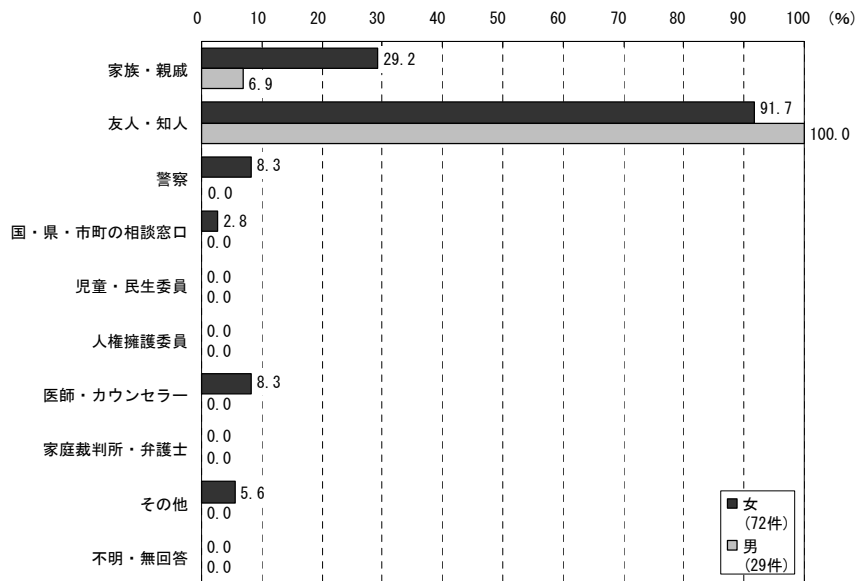


(4) デートDVを受けた際の相談の相手先

「友人・知人」が94.1%と最も多く、「家族・親戚」が22.8%とこれに次いでいる。他方、「児童・民生委員」、「人権擁護委員」、「家庭裁判所・弁護士」を相談相手とした回答者はいない。

これを性別で見ると、男性では全ての回答者が「友人・知人」を相談相手としている。また、女性では「友人・知人」が9割以上を占める他、わずかではあるが「警察」、「国・県・市町村の相談窓口」、「医師・カウンセラー」といった外部機関も活用されている。





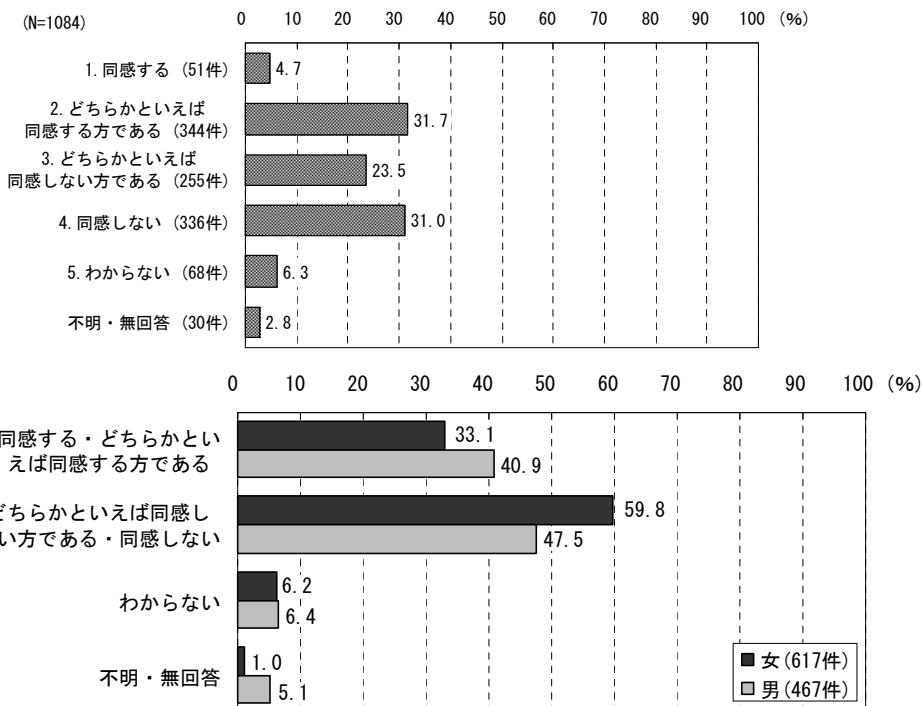
7. 男女共同参画意識について

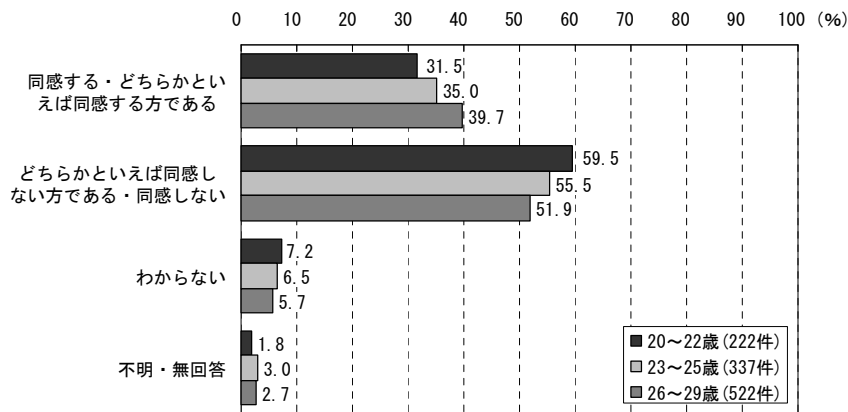
(1) 「男は仕事をし、女は家庭を守るべき」という考え方について

「同感する」および「どちらかといえば同感する方である」を合わせると『同感する』が 36.4%を占めている。他方、「同感しない」および「どちらかといえば同感しない方である」を合わせると『同感しない』が 54.5%を占めており、『同感しない』が『同感する』を 18.1 ポイント上回っている。

これを性別で見ると、男性では『同感しない』が『同感する』を 6.6 ポイント、女性では『同感しない』が『同感する』を 26.7 ポイント、それぞれ上回っており、女性が男性に比べ『同感しない』の割合が高くなっている。

年齢別で見ると、「20～22歳」では『同感しない』が『同感する』を 28.0 ポイント、「23～25歳」では『同感しない』が『同感する』を 20.5 ポイント、「26～29歳」では『同感しない』が『同感する』を 12.2 ポイント、それぞれ上回っており、若い年齢層ほど『同感しない』の割合が高くなっている。

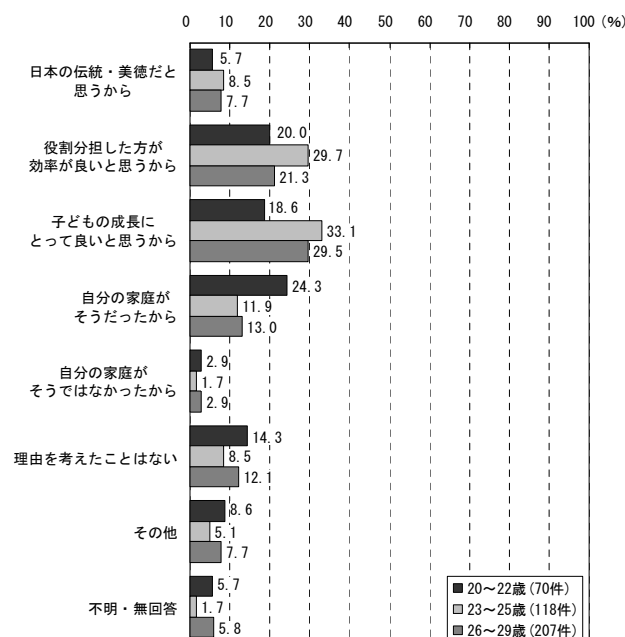
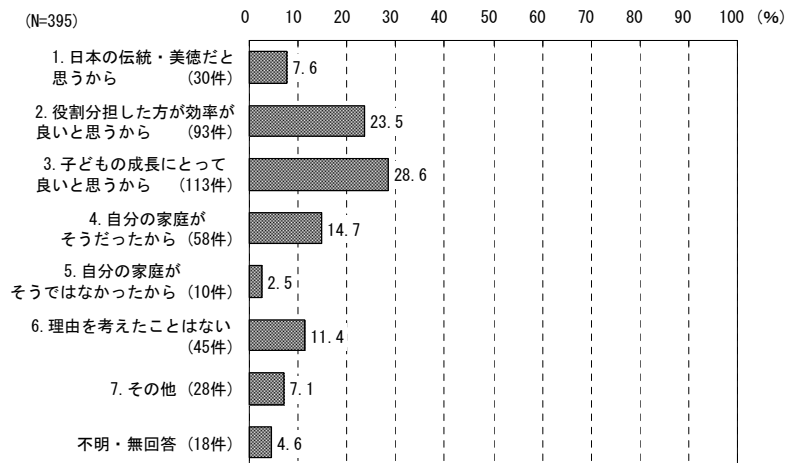




(2) 「男は仕事をし、女は家庭を守るべき」という考え方に同意する理由

「子どもの成長にとって良いと思うから」が 28.6%と最も多く、「役割分担した方が効率が良いと思うから」が 23.5%、「自分の家庭がそうだったから」が 14.7%とこれに次いでいる。

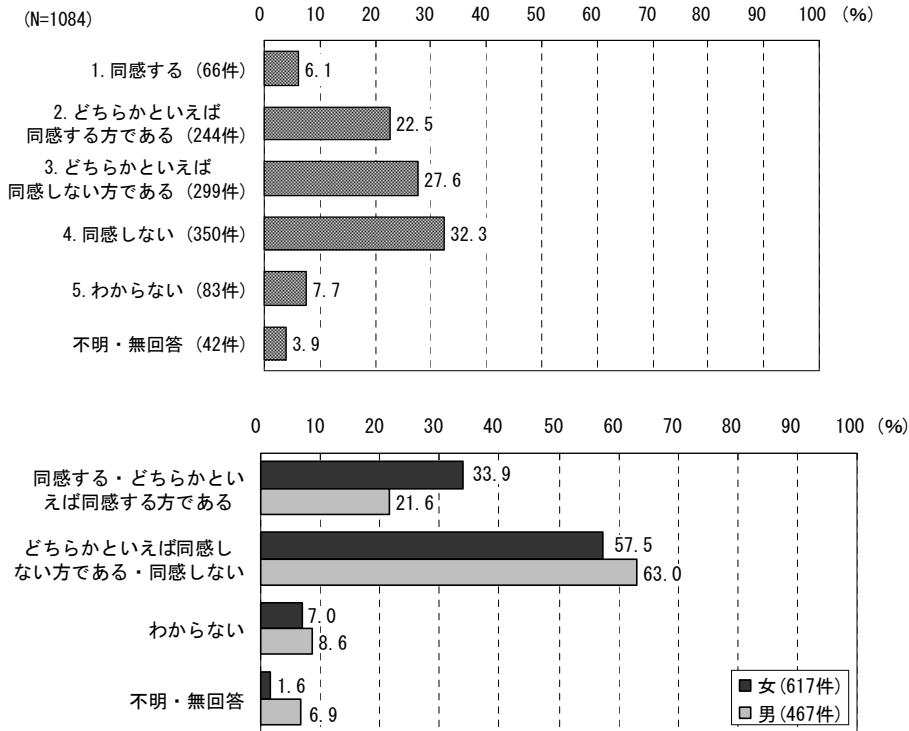
これを年齢別で見ると、「23～25 歳」では他の年齢層に比べ「役割分担した方が効率が良いと思うから」(29.7%)、「子どもの成長にとって良いと思うから」(33.1%) の割合が高くなっている。他方、「20～22 歳」では他の年齢層に比べ「自分の家庭がそうだったから」(24.3%) の割合が高くなっている。



(3) 「子どもが小さい時は、保育園などに子どもを預けず、母親が面倒をみるべきだ」という考え方について

「同感する」および「どちらかといえば同感する方である」を合わせると『同感する』が 28.6%を占めている。他方、「同感しない」および「どちらかといえば同感しない方である」を合わせると『同感しない』が 59.9%を占めており、『同感しない』が『同感する』を 31.3 ポイント上回っている。

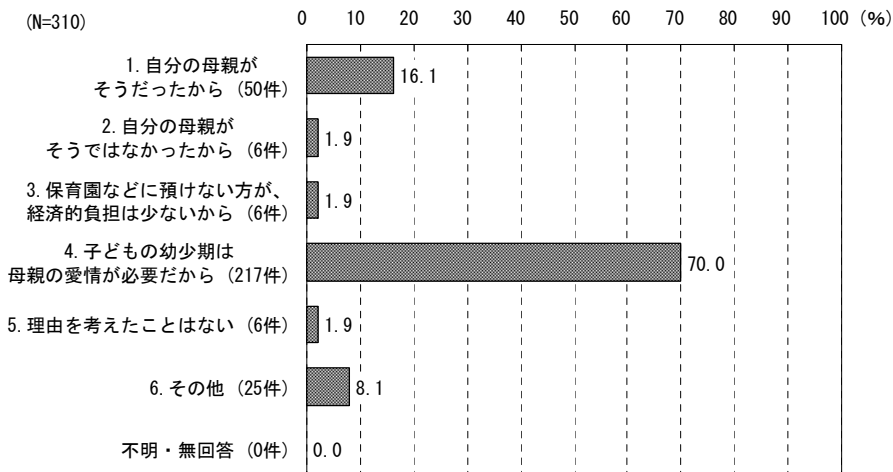
これを性別で見ると、女性では『同感しない』が『同感する』を 23.6 ポイント、男性では『同感しない』が『同感する』を 41.4 ポイントそれぞれ上回っており、男性が女性に比べ『同感しない』の割合が高くなっている。

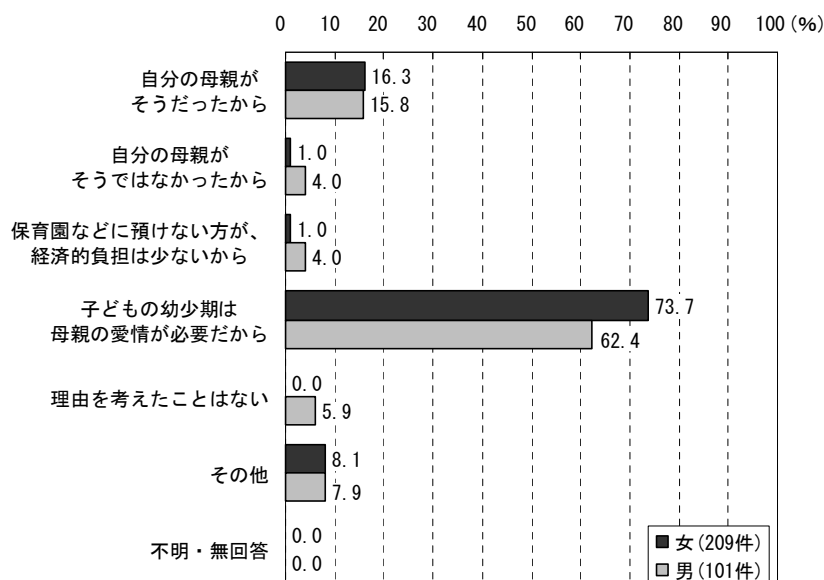


(4) 「子どもが小さい時は、保育園などに子どもを預けず、母親が面倒をみるべきだ」という考え方に同感する理由

「子どもの幼少期は母親の愛情が必要だから」が 70.0%と最も多く、「自分の母親がそうだったから」が 16.1%とこれに次いでいる。

これを性別で見ると、女性では男性に比べ「子どもの幼少期は母親の愛情が必要だから」11.3 ポイント、「自分の母親がそうだったから」が 0.5 ポイント多くなっている。他方、男性では女性に比べ「自分の母親がそうではなかったから」および「保育園などに預けない方が経済的負担は少ないから」がそれぞれ 3.0 ポイント多くなっている。

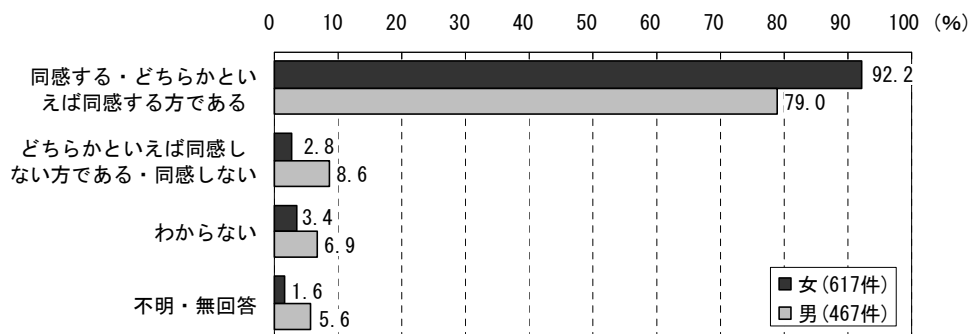
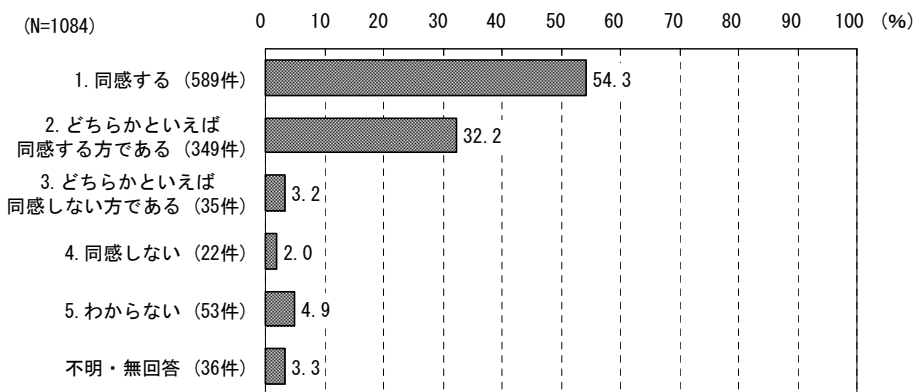




(5) 「父親は、母親と役割分担して、家事・育児に積極的に参画すべきだ」という考え方について

「同感する」および「どちらかといえば同感する方である」を合わせると『同感する』が 86.5%を占めている。他方、「同感しない」および「どちらかといえば同感しない方である」を合わせると『同感しない』が 5.2%となっており、『同感する』が『同感しない』を 81.3 ポイント上回っている。

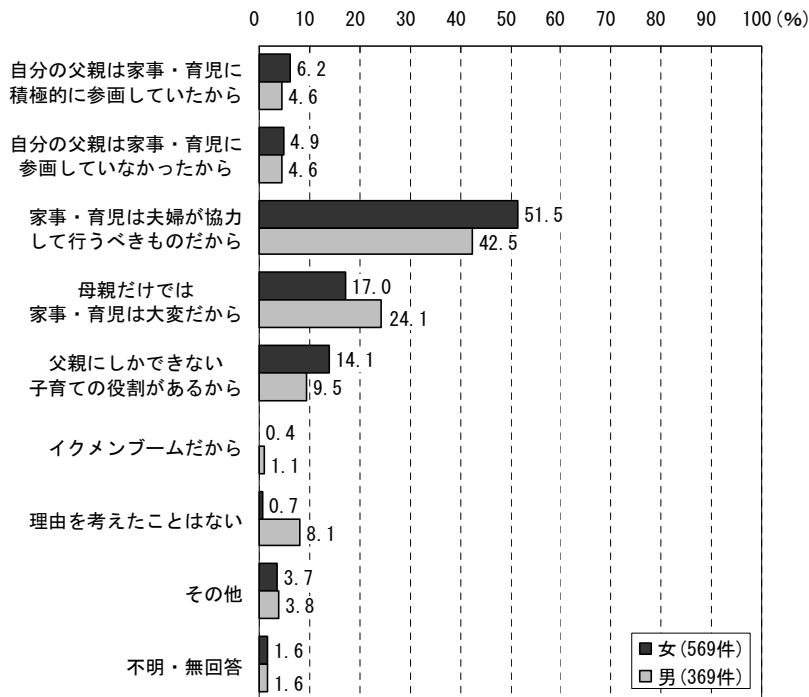
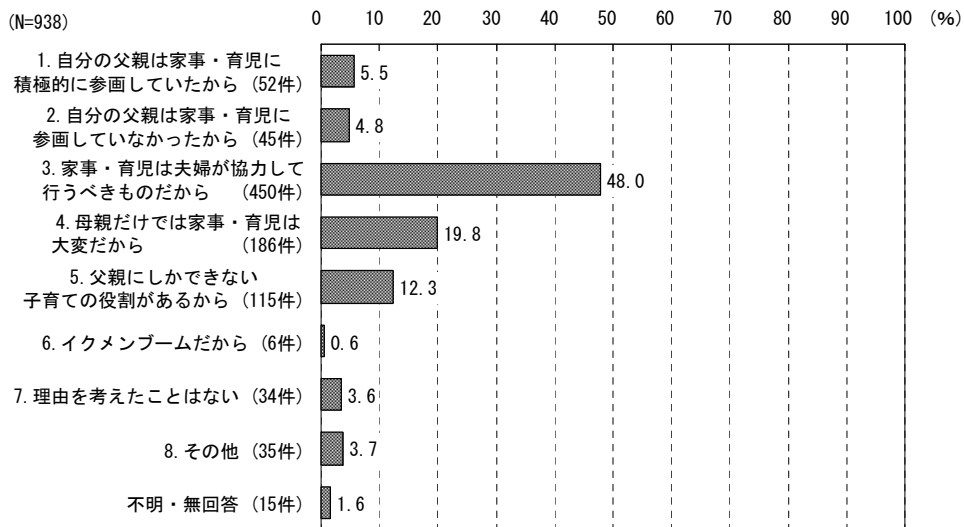
これを性別で見ると、男性では『同感する』が『同感しない』を 70.4 ポイント、女性では『同感する』が『同感しない』を 89.4 ポイントそれぞれ上回っており、女性が男性に比べ『同感する』割合が高くなっている。



(6) 「父親は、母親と役割分担して、家事・育児に積極的に参画すべきだ」という考え方に同感する理由

「家事・育児は夫婦が協力して行うべきものだから」が 48.0%と最も多く、「母親だけでは家事・育児は大変だから」が 19.8%、「父親にしかできない子育ての役割があるから」が 12.3%とこれに次いでいる。

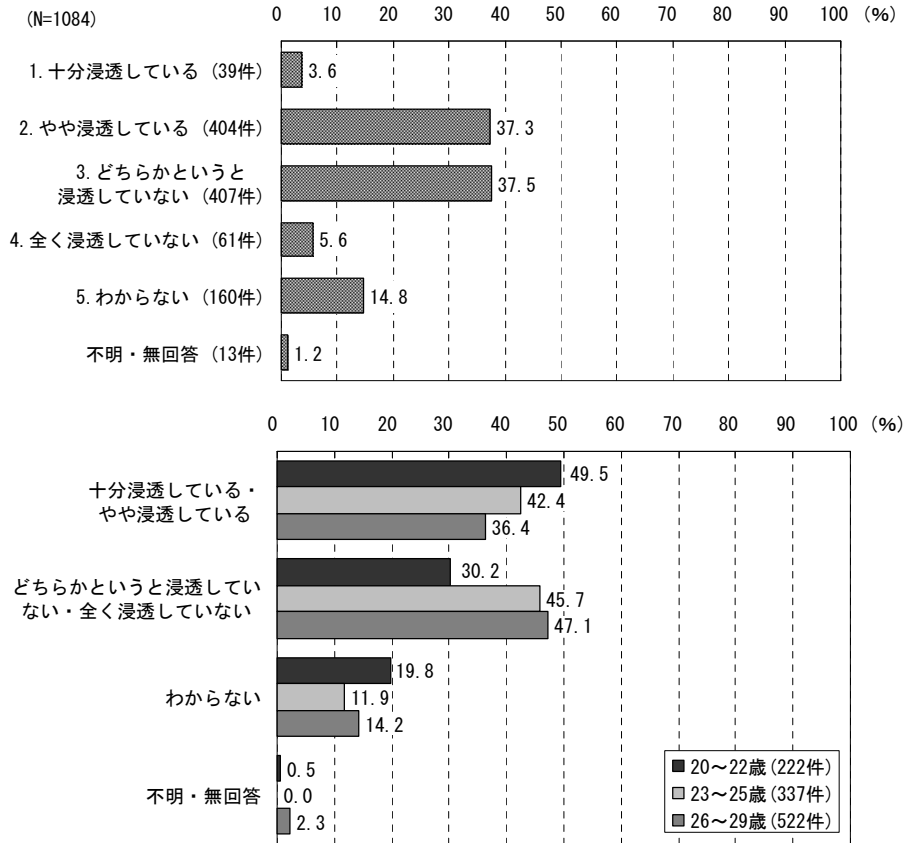
これを性別で見ると、女性は男性に比べ「家事・育児は夫婦が協力して行うべきものだから」が 9.0 ポイント、「父親にしかできない子育ての役割があるから」が 4.6 ポイント、「自分の父親は家事・育児に積極的に参画していたから」が 1.6 ポイント多くなっている。他方、男性は女性に比べ「母親だけでは家事・育児は大変だから」が 7.1 ポイント多くなっている。



(7) 家庭や社会における「男女共同参画意識」の浸透度合いの認識

「十分浸透している」および「やや浸透している」を合わせると『浸透している』が 40.9%を占めている。他方、「どちらかという浸透していない」および「全く浸透していない」を合わせると『浸透していない』が 43.1%を占めており、『浸透していない』が『浸透している』を 2.2 ポイント上回っている。

また、年齢別で見ると、「20 歳～22 歳」では他の年齢層に比べて『浸透している』の割合が相対的に高くなっている。

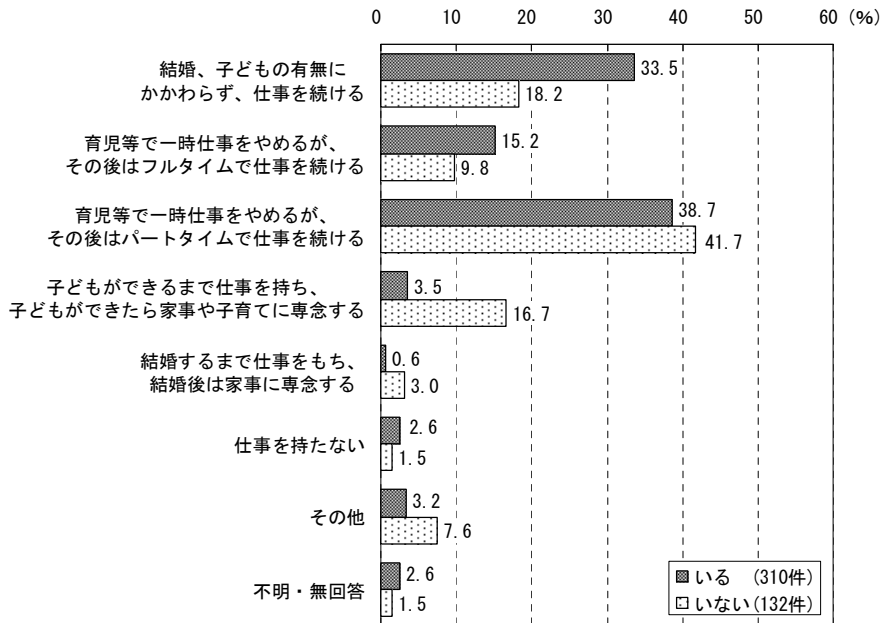


8. 手本となる人物の有無による意識の違い

(1) 手本となる人物の有無 × 自身の働き方の現実 (女性のみ)

「結婚、子どもの有無にかかわらず、仕事を続ける」は、仕事と家庭を両立し、社会で活躍するためのお手本とする人物が「いる」とする回答者で 33.5%となっており、手本とする人物が「いない」とする回答者の 18.2%を 15.3 ポイント上回っている。

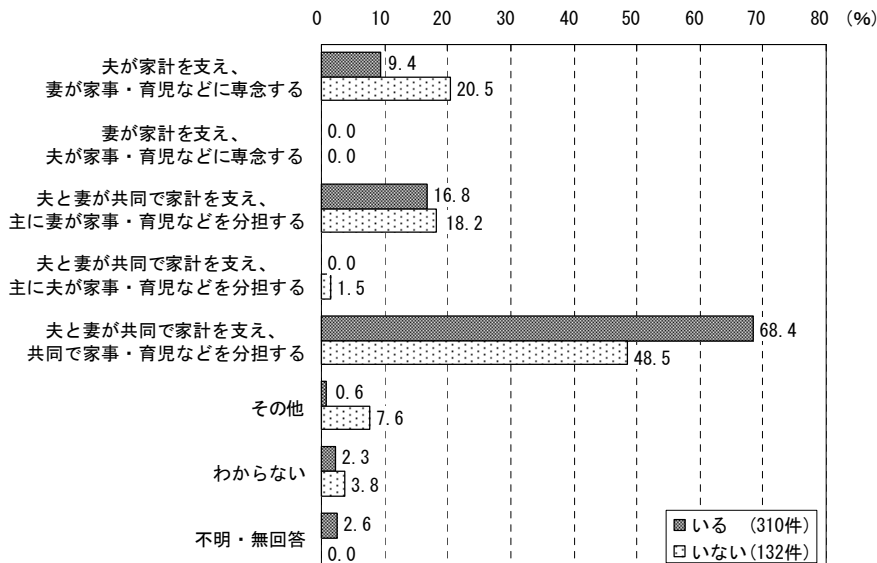
他方、「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する」は、お手本とする人物が「いない」とする回答者で 16.7%となっており、手本とする人物が「いる」とする回答者の 3.5%を 13.2 ポイント上回っている。



(2) 手本となる人物の有無 × 結婚後の男女の役割分担 (女性のみ)

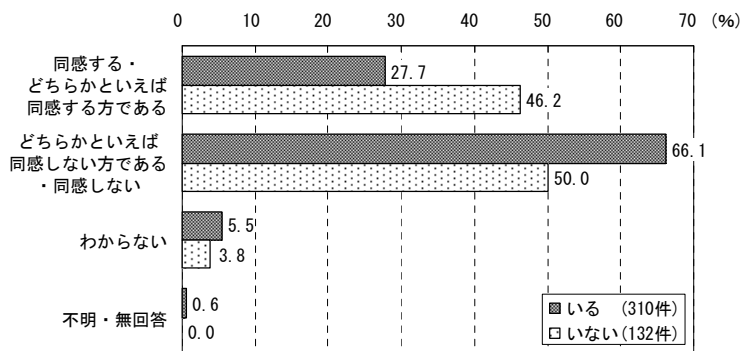
「夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児などを分担する」は、仕事と家庭を両立し、社会で活躍するためのお手本とする人物が「いる」とする回答者で 68.4%となっており、手本とする人物が「いない」とする回答者の 48.5%を 19.9 ポイント上回っている。

他方、「夫が家計を支え、妻が家事・育児などに専念する」は、お手本とする人物が「いない」とする回答者で 20.5%となっており、手本とする人物が「いる」とする回答者の 9.4%を 11.1 ポイント上回っている。



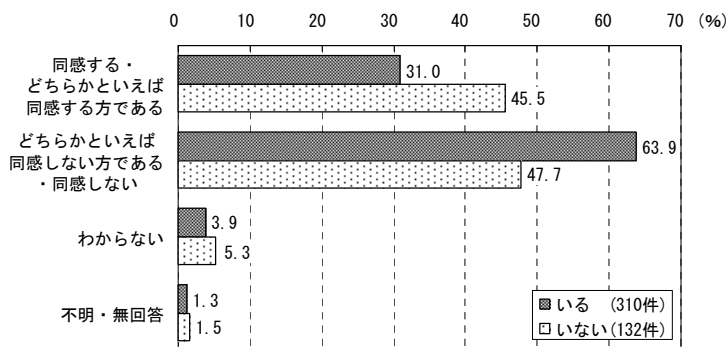
(3) 手本となる人物の有無 × 「男は仕事をし、女は家庭を守るべき」という考え方 (女性のみ)

「男は仕事をし、女は家庭を守るべき」という考え方に『同感しない』は、仕事と家庭を両立し、社会で活躍するためのお手本とする人物が「いる」とする回答者で 66.1%となっており、手本とする人物が「いない」とする回答者の 50.0%を 16.1 ポイント上回っている。



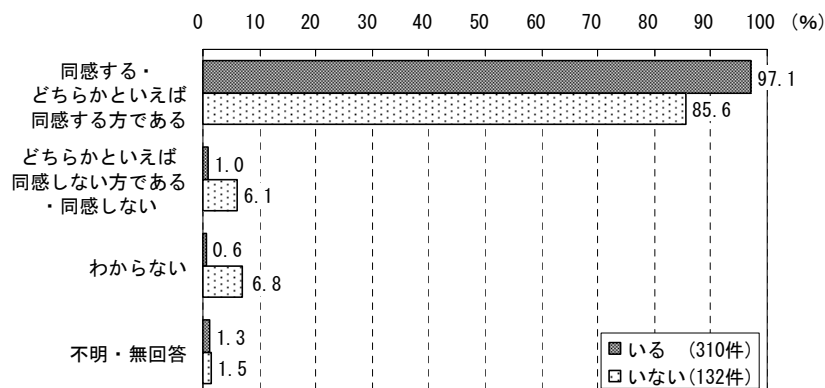
(4) 手本となる人物の有無 × 「保育園などに子どもを預けず、母親が面倒をみるべきだ」という考え方 (女性のみ)

「保育園などに子どもを預けず、母親が面倒をみるべきだ」という考え方に『同感しない』は、仕事と家庭を両立し、社会で活躍するためのお手本とする人物が「いる」とする回答者で 63.9%となっており、手本とする人物が「いない」とする回答者の 47.7%を 16.2 ポイント上回っている。



(5) 手本となる人物の有無 × 「父親は、母親と役割分担して、家庭・育児に積極的に参画すべきだ」という考え方 (女性のみ)

「父親は、母親と役割分担して、家庭・育児に積極的に参画すべきだ」という考え方に『同感する』は、仕事と家庭を両立し、社会で活躍するためのお手本とする人物が「いる」とする回答者で 97.1%となっており、手本とする人物が「いない」とする回答者の 85.6%を 11.5 ポイント上回っている。

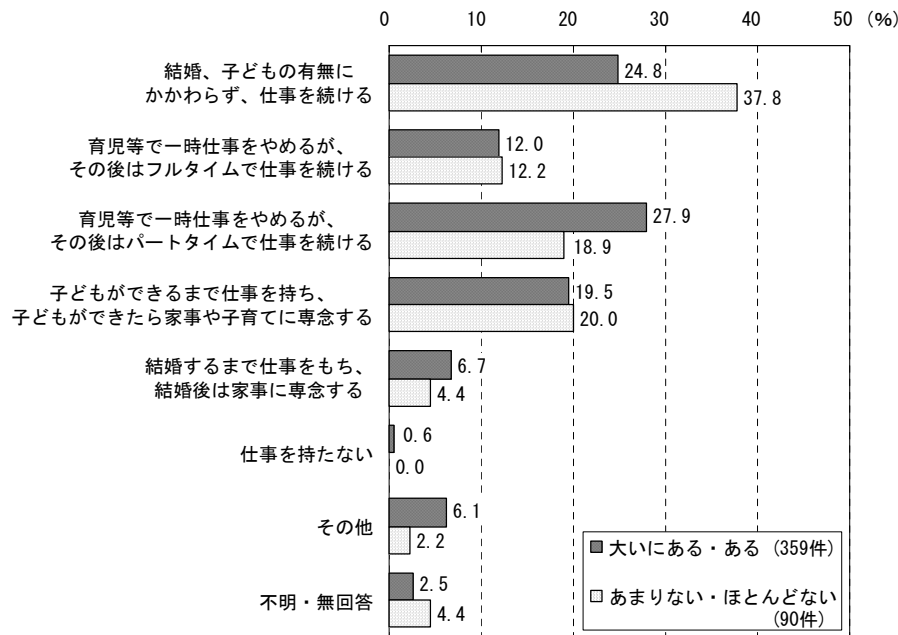


9. 将来の生活の不安の有無による意識の違い

(1) 将来の生活の不安 × 配偶者の働き方の理想（男性のみ）

「育児等で一時仕事をやめるが、その後はパートタイムで仕事を続ける」は、将来の生活の不安について「大いにある・ある」とする回答者で27.9%となっており、「あまりない・ほとんどない」の18.9%を9.0ポイント上回っている。

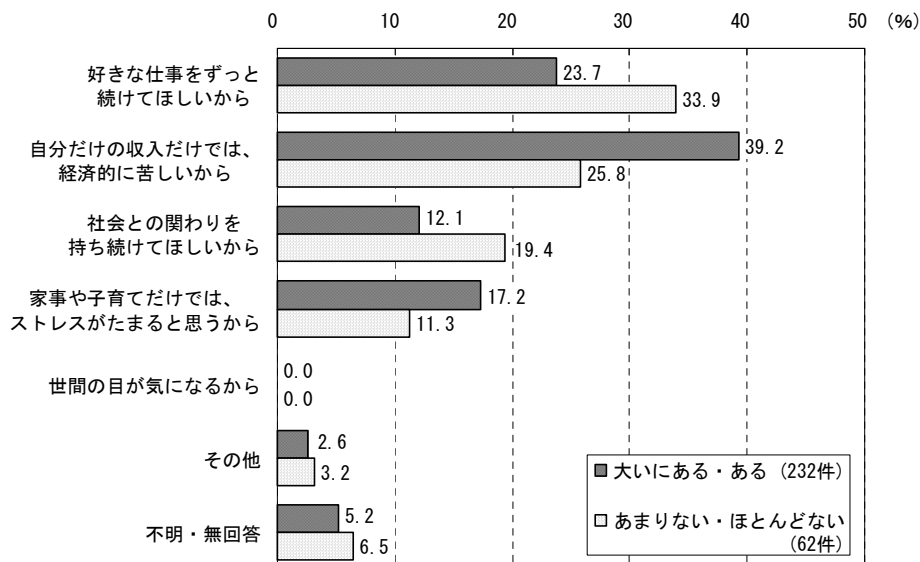
他方、「結婚、子どもの有無にかかわらず、仕事を続ける」は、将来の生活の不安について「あまりない・ほとんどない」とする回答者で37.8%となっており、「大いにある・ある」とする回答者の24.8%を13.0ポイント上回っている。



(2) 将来の生活の不安 × 配偶者に仕事を継続してほしい理由（男性のみ）

「自分だけの収入だけでは、経済的に苦しいから」は、将来の生活の不安について「大いにある・ある」で39.2%となっており、「あまりない・ほとんどない」とする回答者の25.8%を13.4ポイント上回っている。

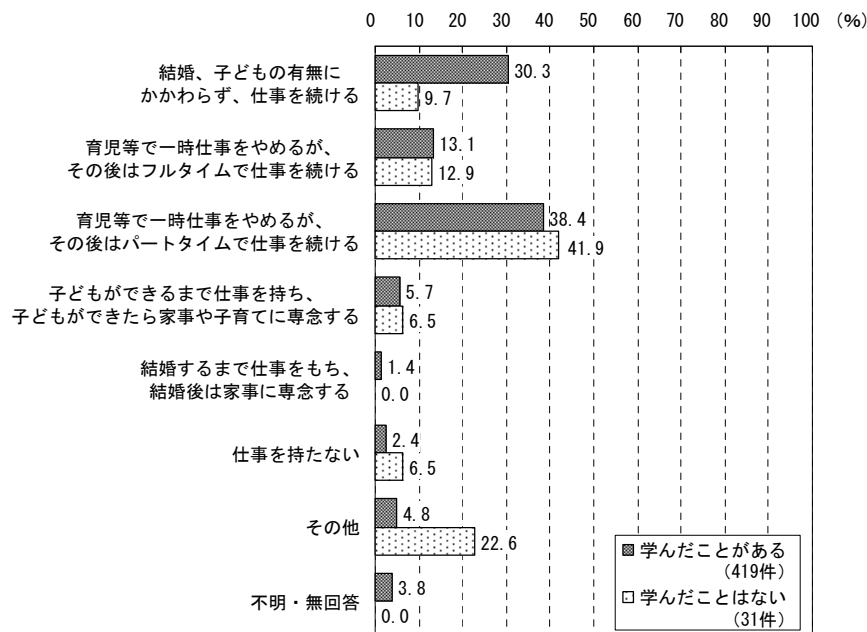
他方、「好きな仕事をずっと続けてほしいから」は、将来の生活の不安について「あまりない・ほとんどない」とする回答者で33.9%となっており、「大いにある・ある」の23.7%を10.2ポイント上回っている。



10. 男女共同参画についての学びの有無・理解度による意識の違い

(1) 男女共同参画についての学びの有無 × 自身の働き方の現実（女性のみ）

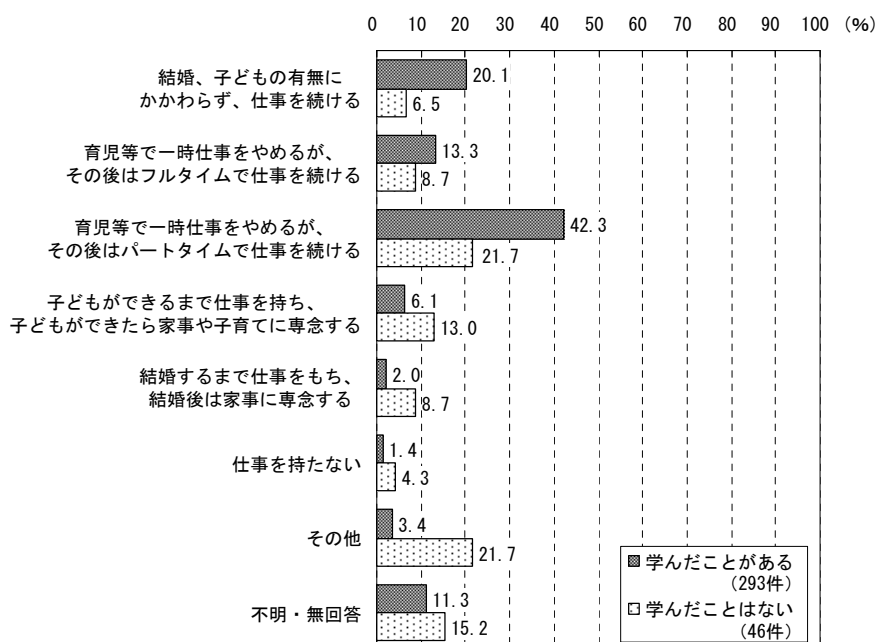
現実の自身の働き方について、「学んだことがある」とする回答者で「結婚、子どもの有無にかかわらず、仕事を続ける」が30.3%となっており、「学んだことはない」とする回答者の9.7%を20.6ポイント上回っている。



(2) 男女共同参画についての学びの有無 × 配偶者の働き方の現実（男性のみ）

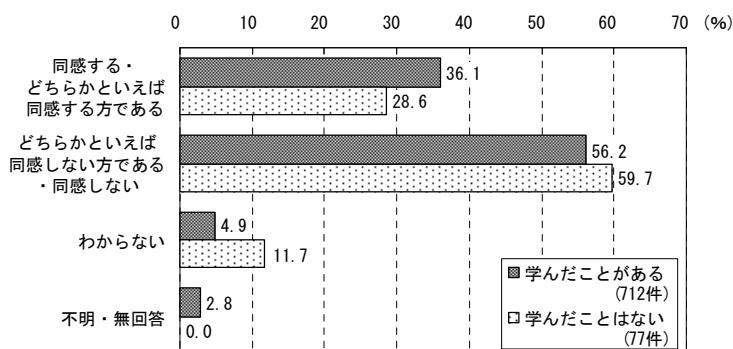
現実の配偶者の働き方について、「学んだことがある」とする回答者で「育児等で一時仕事をやめるが、その後はパートタイムで仕事を続ける」が42.3%となっており、「学んだことはない」とする回答者の21.7%を20.6ポイント上回っている。

また、「学んだことがある」とする回答者で「結婚、子どもの有無にかかわらず、仕事を続ける」が20.1%となっており、「学んだことはない」とする回答者の6.5%を13.6ポイント上回っている。



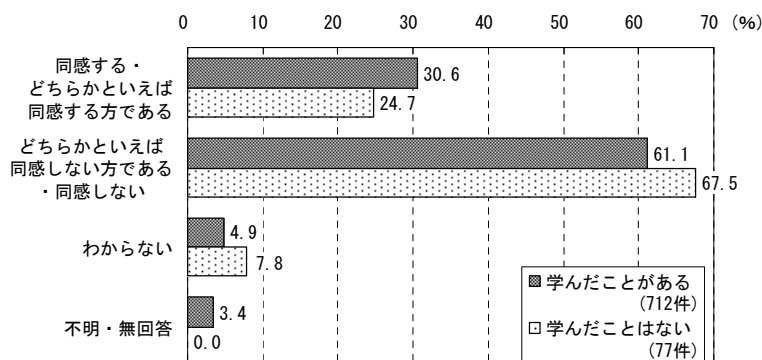
(3) 男女共同参画についての学びの有無 × 「男は仕事をし、女は家庭を守るべき」という考え方

「男は仕事をし、女は家庭を守るべき」という考え方に対して『同感しない』は男女共同参画について「学んだことがある」とする回答者と「学んだことはない」とする回答者とで差異はない。しかし、『同感する』は、男女共同参画について「学んだことがある」とする回答者で 36.1%となっており、「学んだことはない」とする回答者の 28.6%を 7.5 ポイント上回っている。



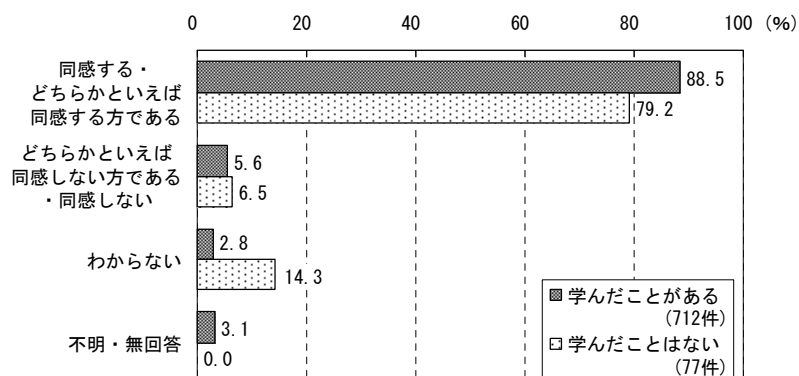
(4) 男女共同参画についての学びの有無 × 「子どもが小さい時は、保育園などに子どもを預けず、母親が面倒をみるべきだ」という考え方

「子どもが小さい時は、保育園などに子どもを預けず、母親が面倒をみるべきだ」という考え方に対して『同感する』は、男女共同参画について「学んだことがある」とする回答者で 30.6%となっており、「学んだことはない」とする回答者の 24.7%を 5.9 ポイント上回っている。



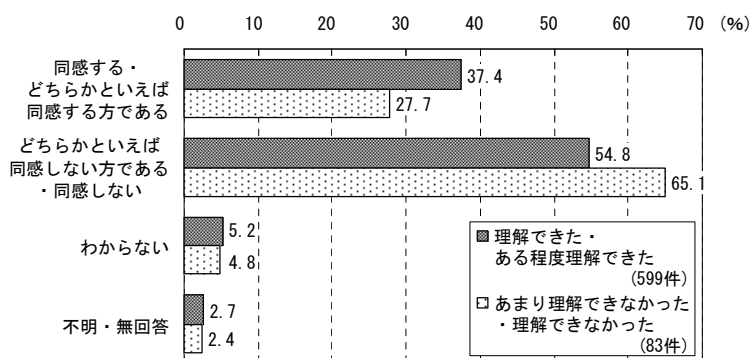
(5) 男女共同参画についての学びの有無 × 「父親は、母親と役割分担して、家庭・育児に積極的に参画すべきだ」という考え方

「父親は、母親と役割分担して、家庭・育児に積極的に参画すべきだ」という考え方に対して『同感する』は、男女共同参画について「学んだことがある」とする回答者で 88.5%となっており、「学んだことはない」とする回答者の 79.2%を 9.3 ポイント上回っている。



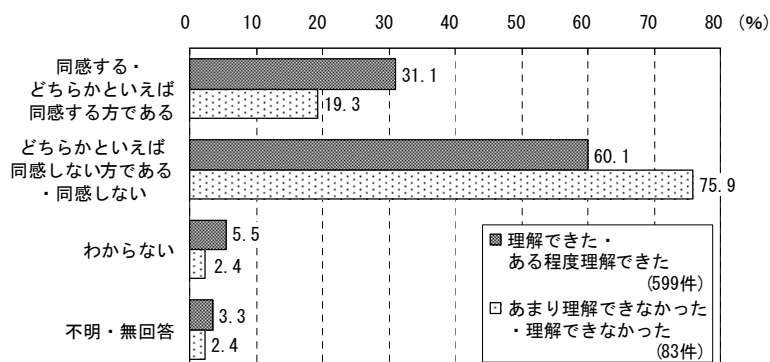
(6) 男女共同参画の内容の理解度 × 「男は仕事をし、女は家庭を守るべき」という考え方

「男は仕事をし、女は家庭を守るべき」という考え方に対して『同感しない』は、男女共同参画の内容の理解について「あまり理解できなかった・理解できなかった」とする回答者で 65.1%となっており、「理解できた・ある程度理解できた」とする回答者の 54.8%を 10.3 ポイント上回っている。



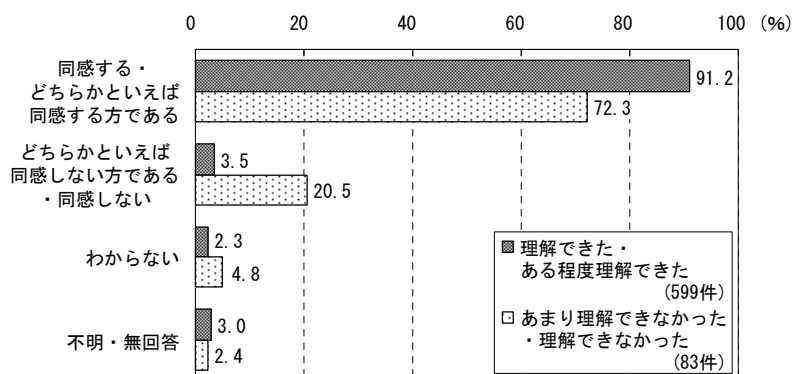
(7) 男女共同参画の内容の理解度 × 「子どもが小さい時は、保育園などに子どもを預けず、母親が面倒をみるべきだ」という考え方

「子どもが小さい時は、保育園などに子どもを預けず、母親が面倒をみるべきだ」という考え方に対して『同感しない』は、男女共同参画の内容の理解について「あまり理解できなかった・理解できなかった」とする回答者で 75.9%となっており、「理解できた・ある程度理解できた」とする回答者の 60.1%を 15.8 ポイント上回っている。



(8) 男女共同参画の内容の理解度 × 「父親は、母親と役割分担して、家事・育児に積極的に参画すべきだ」という考え方

「父親は、母親と役割分担して、家事・育児に積極的に参画すべきだ」という考え方に対して『同感する』は、男女共同参画の内容の理解について「理解できた・ある程度理解できた」とする回答者で 91.2%となっており、「あまり理解できなかった・理解できなかった」とする回答者の 72.3%を 18.9%上回っている。



若年者の男女共同参画に関する意識調査<概要版>

平成23年(2011年)12月

【発行】滋賀県 総合政策部 男女共同参画課
〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1番1号

電話 : 077-528-3071 F A X : 077-528-4807

Eメール : ct00@pref.shiga.lg.jp